

**SUPERBIKE**  
JAPAN



**HONDA**  
T.AOKI



**YAMAHA**  
N.FUJIWARA



**SUZUKI**  
K.FUJIWARA



**KAWASAKI**  
A.YANAGAWA



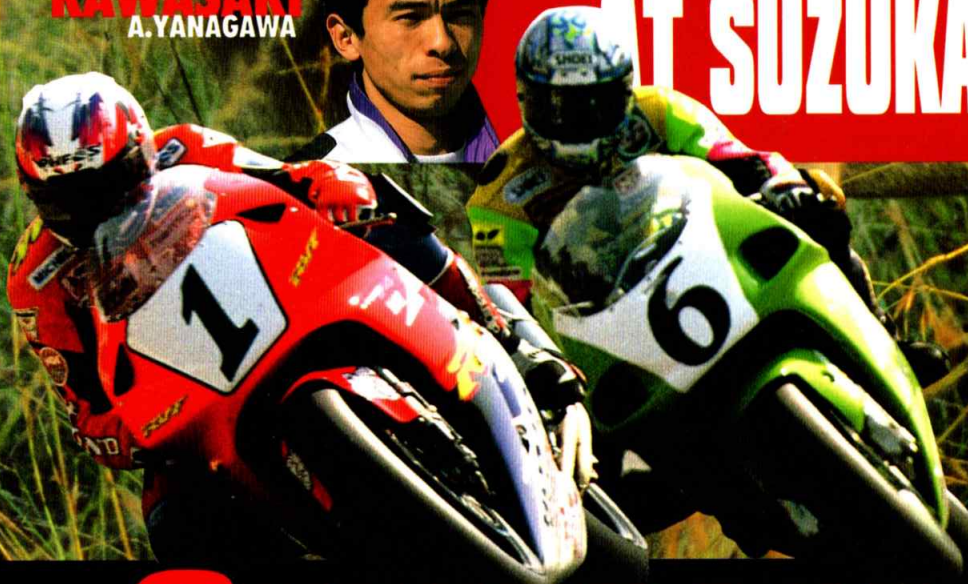
**THE**

**FINAL**

**BATTLE**

**AT SUZUKA**

**9/7** 予選 **SAT**  
**8** 決勝 **SUN**



**SUZUKA**  
**SUPER BIKE 2 HEAT RACE**

■■■ '96MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ第8戦 鈴鹿スーパーバイク2ヒートレース ■■■

RACE START

**SUPER BIKE**

**GP125 11:50**

**Heat1 10:30**

**GP250 13:50**

**Heat2 15:10**

**SUPER NAKED 16:25 (東コース)**



未成年者の喫煙は禁じられています  
あなたの健康を損なうおそれがありますので  
吸いすぎに注意しましょう

LUCKY STRIKE レーシングインフォメーション

03-3490-7878

最新のレース情報を24時間お届けしています。



BOX  
250円

タール11mg  
ニコチン0.8mg

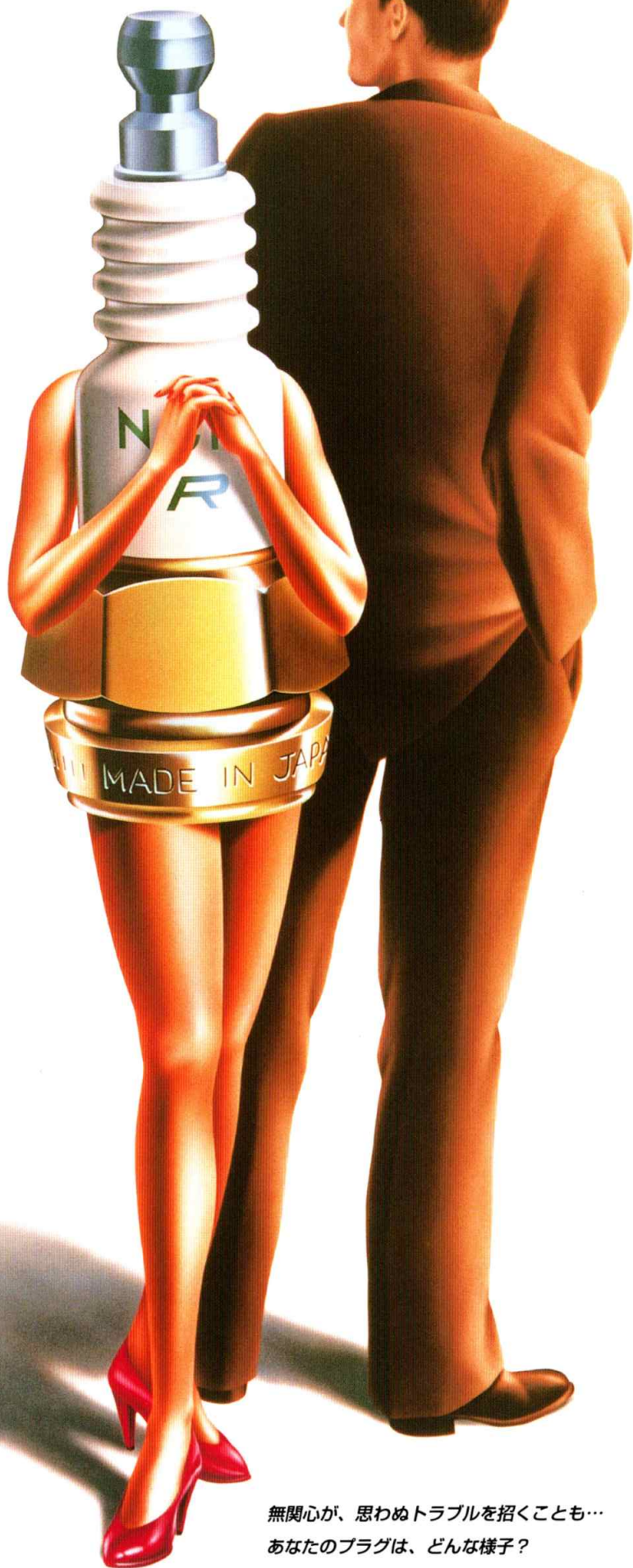
AN AMERICAN ORIGINAL.

LUCKY STRIKE





もっと、  
気にして  
ほしい。



無関心が、思わぬトラブルを招くことも…  
あなたのプラグは、どんな様子？  
愛するクルマのために、整備の際には点検を忘れずに。



日本特殊陶業



1995 125cc World Champion  
Haruchika Aoki



## 勝者の超性能サスペンション<WP>

人が肉体をビルドアップして自らの限界に挑むように、  
卓越したパーツをビルドインすることで、  
そのポテンシャルを限りなく高めていくレーシングマシン。  
今、あなたがマシンの脚回りの強化を目指しているなら  
本場ヨーロッパのサーキットで誰もが認めるサスペンション<WP>。  
時間の壁を越えたければ、超性能の豪脚を組上げろ。



MC INTERNATIONAL CO., LTD.  
4-15-18 SHINMACHI NISHI-KU OSAKA JAPAN 550  
TEL.06-536-0901 FAX.06-536-0907



WM PROD. TEAM CO., LTD.  
2-9-33 MIZUHAI HIGASHI OSAKA OSAKA JAPAN 578  
TEL.0729-61-1888 FAX.0729-66-0010





# Agip

motor oils



いつも  
アジップがいる



SHOWA BOEKI CO., LTD.

18-27, EDOBORI 1-CHOME, NISHI-KU, OSAKA, 550 JAPAN  
PHONE:(06)441-8121 FAX:(06)444-6060



モーターマガジン社

東京都港区新橋5-33-10 Tel.03-3434-3151(代)

オートバイ

毎月1日発売/定価550円

Mr. Bike モーターバイク

毎月6日発売/定価280円

Mr. Bike モーターバイク BG

毎月14日発売/定価320円

GOGGLE

毎月24日発売/定価500円

もう、ふりふりキレちゃってるとです。

いいな、欲しいな、がある。

スゲー、がある。ヤルじゃん、がある。

なに考えてんだ、バカヤロー、もある。

バイクファンの気持ちちを、

ギョギョツとつかむモーターマガジンの雑誌たち。

ななみ、ギツチリ。

もう、ふりふりキレちゃってて読むごたえです。

あなたの好きな一冊が、きつとこのなかにある。

モーターマガジン社から。



もう、好きで、好きで。  
モーターマガジン社の雑誌





# 美しいだけがツールではない

見た目に美しいツールはいろいろある  
 しかしその真価は外見だけではわからない  
 特に現代のマシンに不可欠なデリケートな整備作業には、  
 それにふさわしいものが必要だ。  
 今、ハンドツールの頂点として、その仕上げや耐久性はもちろんのこと、  
 とことんまで手への感触にこだわり、  
 繊細な作業に見事に応える扱い易さをカタチにした  
 新しいシリーズが完成した。

フロの要求に応える圧倒的なクオリティは、  
 大きいかつい手のために作られた他のツールたちを完全に凌駕する。

neDros = NEW PROFESSIONAL SATISFACTION

その名はネプロス

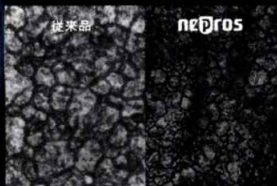
新登場

## neDros

### MIRROR 5GQ・KTC



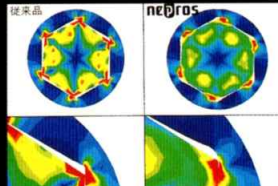
9.5sq. Socket Wrench/ 9.5sq. Deep Socket Wrench/ 9.5sq. Union Ratchet Handle/ 9.5sq. Spinner Handle/ 9.5sq. Extension Bar/ 9.5sq. Quick Spinner/ 9.5sq. Universal Joint/ 9.5sq. Spark Plug Wrench/ 45 Offset Wrench/ Flat Type Short Boxend Wrench/ Open End Wrench/ Combination Wrench/ Heavy Duty Diagonal Plier/ Long Nose Plier/ Angle Nose Plier/ Plier/ Adjustable Wrench/ Screw Driver/ Stubby Screw Driver



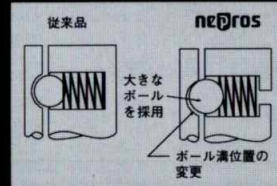
**抜群の強靭さと耐久性**  
 KTCだけのオリジナル素材5GQを大手特殊鋼メーカーと共同開発 一般規格鋼材では不可能な高強度と耐久性を実現



**超コンパクト**  
 口径側の対角寸法を極限まで小さくし、高度な塑性加工技術を駆使して同時に軽量化 狭い場所での作業性を格段に向上



**Nパワーフィット**  
 許容加工公差を厳しく設定することでホルト・ナットとの嵌合キャップを極限まで縮小 なおかつ、接触面を拡大する最適化設計をおこないトルク伝達効率を飛躍的にアップ



**フィット感に優れた操作性**  
 例えば駆動工具との接合時にカタつきを最小となるようボール溝位置/サイズを再検討 またラチェットの送り角を見直すなどさまざまな工夫を盛り込んだ



SUZUKA CIRCUIT OFFICIAL TOOLS  
 あの鈴鹿サーキットがネプロスをオフィシャルツールとして認定 バドックでのツールサービス&メカニックサポートも開始する



京都機械工具株式会社

〒613 京都府久世郡久御山町佐山新開地128番地  
 Tel. 0774 46-3700 代 Fax 0774 46-3734

支店 東京03 3752 2261 / 名古屋052 882 6671 / 近畿0774 46 3711  
 営業所 札幌011 824 0765 / 仙台022 231 6322 / 関東048 854 3213 / 金沢0762 91 4546 / 広島082 273 0202 / 福岡092 441 5637  
 駐在所 / 四国0878 74 7288

ネプロス専用お問い合わせ窓口：TEL (0774)46-3716



## 公示 ANNOUNCEMENT

本競技会は財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会 (MFJ)公認のもとに国際スポーツ憲章・競技規則に基づいたMFJ国内競技規則ならびに本競技会大会特別規則に基づいて開催される。

This event, authorized by M.F.J., Motorcycle Federation of Japan, will be held in accordance with M.F.J. national race regulations based on the International Sporting Code.

## 開催競技会 EVENT

名称 '96MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第8戦  
鈴鹿スーパーバイク2ヒートレース  
●同日開催 鈴鹿選手権シリーズ第10戦  
SUPER NAKED SUZUKA

日程 1996年9月7日(土)・8日(日)

主催 株式会社 鈴鹿サーキットランド

会場 鈴鹿サーキット フルコース(5.86403km)

Event: '96 MFJ All Japan Road Race Championship Series Round 8  
SUZUKA SUPER BIKE 2 HEAT RACE

●Supporting Race: Suzuka Championship Series Round 10  
SUPER NAKED SUZUKA

Date: September 7, 8, 1996

Organizer: Suzuka Circuitland Co., Ltd.

Place: Suzuka Circuit International Racing Course 5.86403km

## ご協賛各社 SPONSORS

株式会社 アライヘルメット	株式会社 ダブルエム
株式会社 カロツツエリアジャパン	株式会社 永谷園
京都機械工具 株式会社	日本特殊陶業 株式会社
株式会社 三栄書房	株式会社 ニューズ出版
株式会社 山海堂	株式会社 ブリヂストン
株式会社 三推社	モーターマガジン社
昭和貿易 株式会社	ラッキーストライク
住友ゴム工業 株式会社	(五十音順)

## 目次 CONTENTS

ご協賛各社/タイムテーブル/レギュレーション抜粋/大会組織	8
鈴鹿スーパーバイク2ヒートレースの見どころ	12
SBライダー、注目の4人が語る「ぼくのメカニックを紹介します」	18
エントリーリスト	22
GP250レースの見どころ	30
GP125レースの見どころ	34
スーパーNKレースの見どころ	38
鈴鹿サーキット秋のモータースポーツ	40
コースガイド	42

## タイムテーブル TIMETABLE

	7	8	9	10	11	12			
9/6 (金) ●特別スポーツ走行 Free Practice (Untimed)			40 GP125 (A) 30	25 GP125 (B) 10	05 GP250 (A) 55	50 GP250 (B) 35	30 SB A 20	SB B	
9/7 (土)公式予選 ●ゲートオープン Gate Open ●公式予選 Qualifying Practice		8:30	40 GP125 (A) 05	15 GP125 (B) 40	55 GP250 (A) 20	30 GP250 (B) 55	10 SB A 35	45 SB B 10	
9/8 (日)決勝レース ●ゲートオープン Gate Open ●ウォームアップ走行 Warm Up ●スタート進行 Starting Procedure ●決勝レース Races ●仮表 表彰 Provisional Award Prsentation		8:00	40 SB 55	10 GP125 25	40 GP250 55	15	30 SB 第1ヒート (15周)	35 GP125 (15周)	40 PIT

## 大会組織 OFFICIALS

大会会長 President	星島 浩 Hiroshi Hoshijima
大会顧問 Adviser	藤井 璋美 Teruyoshi Fujii
大会顧問 Adviser	福永 頌 Hiroshi Fukunaga
大会顧問 Adviser	木村 吉次 Yoshitsugu Kimura

### 大会組織委員会 Organizing Committee

組織委員長 President	内田 亨 Tohru Uchida
組織委員 Member	樽井 良司 Ryōji Tarui
組織委員 Member	三原 哲夫 Tetsuo Mihara

### 大会審査委員会 Jury of the Meeting

審査委員長 President	杉本 五十洋 Isoyo Sugimoto
審査委員 Member	近藤 幾夫 Ikuo Kondō
審査委員 Member	館 正信 Masanobu Tachi

### 大会競技役員 Officials of the Base

競技監督 Clerk of the Course	和田 将宏 Masahiro Wada
副競技監督 Assistant Clerk of the Course	樽井 良司 Ryōji Tarui
コース委員長 Chief Course Marshal	橋口 賢 Ken Hashiguchi
副コース委員長 Assistant Chief Course Marshal	坪井 清貴 Kiyotaka Tsuboi
車検長 Chief Technical Steward	加藤 慶一 Keiichi Katō
副車検長 Assistant Chief Technical Steward	鈴木 一弘 Kazuhiro Suzuki
計時委員長 Chief Time Keeper	早川 勉 Tsutomu Hayakawa
副計時委員長 Assistant Chief Time Keeper	津村 義則 Yoshinori Tsumura
進行委員長 Paddock Director	鈴木 証二 Shōji Suzuki
副進行委員長 Assistant Paddock Director	加藤 龍志 Tatsushi Katō
ピットパドック管理委員長 Pit-Paddock Controller	内田 修一 Shūichi Uchida
副ピットパドック管理委員長 Assistant Pit-Paddock Controller	飯田 省三 Shōzō Iida
救急委員長 Medical Director	室賀 良久 Yoshihisa Muroga



## レギュレーション抜粋 SUPPLEMENTARY REGULATIONS

### 第1章 共通事項

#### 第14条 公式予選

- ～1) 公式予選の義務周回数とは定めない。  
ただし、少なくとも1周はラップタイムが計測されなければならない。
- ～2) 決勝レース出場台数は下記のように定める。  
全コースレース…44台  
東コースレース…33台

#### 第16条 スタート

- ～1) スタートイングリッド  
最前列は4台とし、以下各列同数で配列される。ポールポジションは左側とする。  
\*全コースレースにおいては階段状グリッドを使用するものとする。
- ～2) 決勝レースのスタート方法はエンジンスタートによるクラッチスタートとする。
- ～5) グリッド上でタイヤウォーマーの使用は禁止される。(余熱による保温は許される。)

#### 第17条 レース終了

- ～1) トップが各クラス定められた周回を終了した時点でトップにチェッカーが振られる。
- ～2) 各レースの終了は、チェッカー旗によりトップ走者がゴールしたのちフルコースは5分東コースは2分を経過した時である。

#### 第39条 賞典

順位	スーパーバイク	GP250	GP125
1位	200万円	70万円	60万円
2位	80万円	40万円	40万円
3位	60万円	35万円	30万円
4位	45万円	30万円	25万円
5位	35万円	25万円	20万円
6位	30万円	20万円	18万円
7位	25万円	18万円	15万円
8位	20万円	15万円	12万円
9位	18万円	10万円	9万円
10位	15万円	8万円	8万円
11位	13万円		
12位	12万円		
13位	11万円		
14位	10万円		
15位	9万円		
以下決勝出走者全員	5万円	3万円	3万円

\*2ヒートレースで2ヒート目のグリッドについてには5万円のグリッド賞が与えられる。

### 第5章 スーパーNKシリーズ

#### 第66条 スタート

- ～1) スタートイングリッドは、最前列を2台とし、以下各列同数で公式予選結果に基づいて配列される。ポールポジションは左側とする。

- ～3) 決勝レースのスタート方法は「ローリングスタート」とする。

#### 第68条 車両規定

##### <NK1>

##### ～1) 車種

総排気量750ccを超える4サイクル・ステールパイプフレームの一般生産車で、鈴鹿コンストラクターズコミッティが公認した車両(今後の追加公認もあり)

公認車両	最低重量	エアリストラクター径
HONDA CB1000SF	185kg	30φ
YAMAHA XJR1200	180kg	30φ
TRX850	165kg	—
KAWASAKI GPZ1100	185kg	29φ
GPZ900R	180kg	—
ZEPHYR1100	180kg	36φ
SUZUKI GSX1100F	180kg	30φ
GSF1200	185kg	29φ
TRIUMPHトライデント900	180kg	—

##### ～2) <NK4-I>

- NK4-Iの車両規定は基本的に後記の第6章NK4記載のものと同様とするが、  
①最低重量は定めない。  
②キャブレターを変更する場合のエアリストリクター取付は義務づけられない。

#### 第70条 買取規定

1大会にて6位以内に入賞した車両は、購入希望者がいればNK1車両は240万円、NK4-I車両は120万円以内で販売しなければならない。ただし、売買によって発生する税金はこの金額には含まれない。

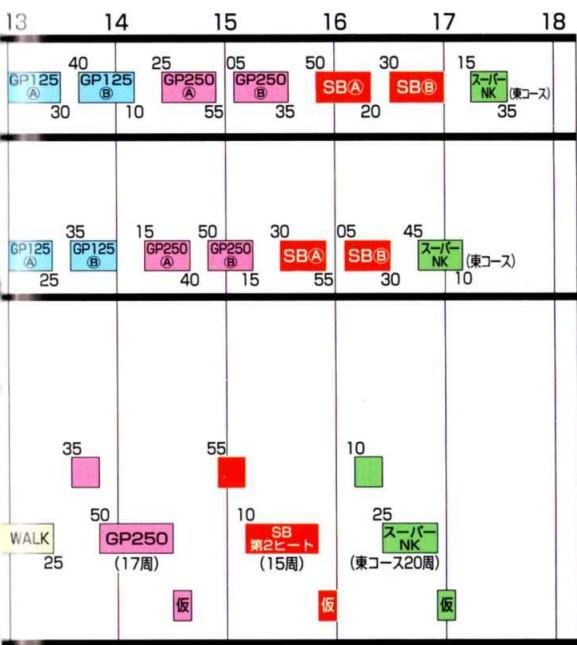
### 第6章 鈴鹿NK4シリーズ

#### 第74条 車両規定

##### ～1) 車種

- ①車両は(市販レーサーを除く)一般生産型で「レーサーレプリカ」以外の車両で、鈴鹿コンストラクターズコミッティが公認したものの、又はネイキッド用コンプリートマシンとして、鈴鹿コンストラクターズコミッティが認めたもの。

鈴鹿コンストラクターズコミッティ公認車両	
HONDA	CB400 SUPER FOUR, CB-I
KAWASAKI	ZEPHYR, ZX
SUZUKI	GSX400S KATANA, BANDIT, GSX400 IMPULSE
YAMAHA	XJR400, DIVERSION

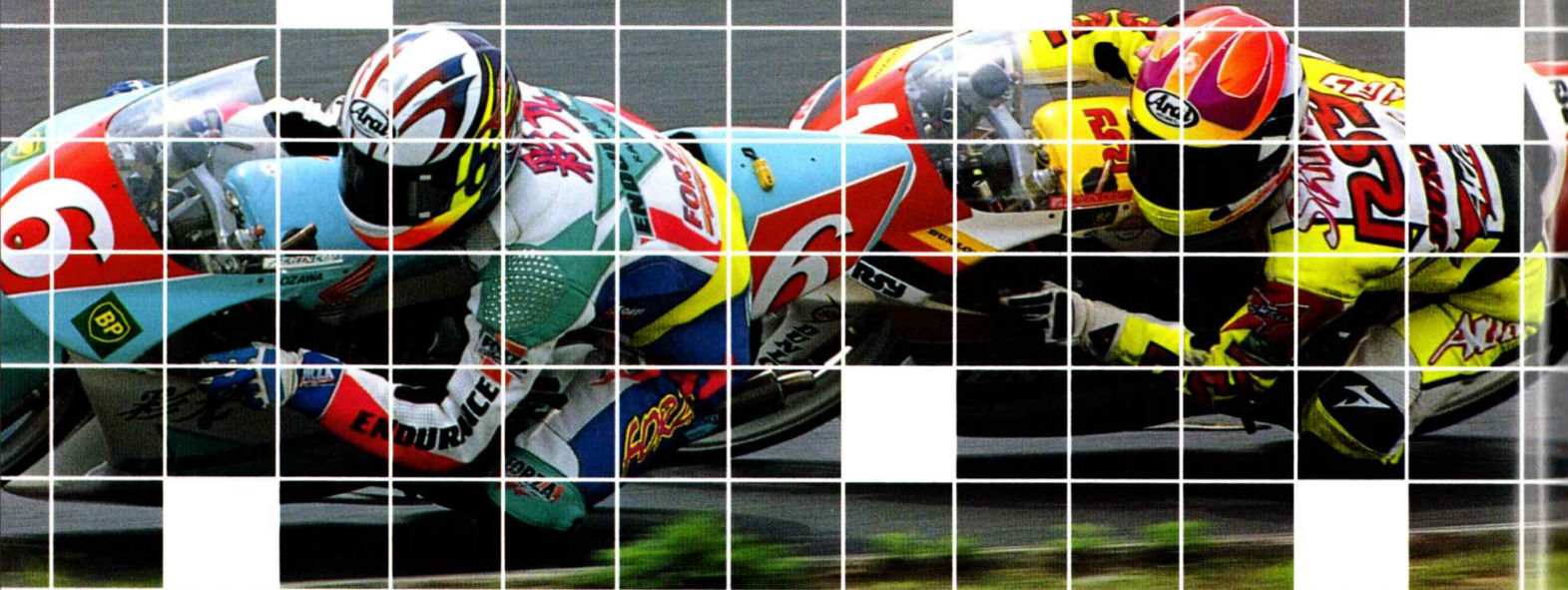


副救急委員長 Assistant Medical Director	梶田 勝久 Katsuhisa Masuda
医師団長 Chief Doctor	石原 公郎 Kimio Ishihara
マーシャルライダー Marshal on the Marshal Bike	千石 清一 Seiichi Sengoku
広報委員長 Public Relation Director	後藤 博泰 Hiroyasu Gotō
事務局長 Secretary General	市瀬 重敏 Shigetoshi Ichise
事務局次長 Assistant Secretary	吉田 隆文 Takafumi Yoshida
レースアナウンサー Official Announcer	みし奈 昌俊 Masatoshi Mishina
レースアナウンサー Official Announcer	稗田 美穂 Miho Hieda
鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen	飯野みのり Minoru Iino
鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen	石川美津穂 Mizuhito Ishikawa
鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen	大石 優子 Yuko Oishi
鈴鹿サーキットクイーン Suzuka Circuit Queen	村松加王里 Kaori Muramatsu

●コース	高田 秀孝	森 猛	松本 克実	堀江 忠良	松村 恵史	内山 充	藤田 浩一	吉池まさ美
土田 雅美	加藤 恭三	吉井 久智	富谷 順一	吉田 成美	松井紗代子	竹房 清文	平野 聡	日下部信司
児玉 康裕	加藤 光秋	加藤 光秋	舟橋 伸介	大江 孝次	中村 仁美	外松 慎一	中西広一郎	堀崎 由香
内田 鉄弥	永島 重明	木村幸太郎	鈴木 一彦	松本 芳樹	和田 弘美	小池 貴之	清水 綾	太田由美子
山下 洋	森崎 彰文	逸見 文俊	三谷 元人	樋口 昇三	広瀬 智美	菱木 高明	杉野 達也	吉田 晃至
土井 康正	尾田 長史	長沢 友和	上村 誠児	中 和利	大村香津代	道夫	角本 民幸	吉岡 友紀
田中 悟	軽部 勉	田守 郁介	伊藤 大輔	奥井英太郎	谷 正幸	中野 直樹	中村 嘉晴	小倉 誠
杉山 明人	山本 尚史	東野 貴士	宮澤 謙作	藤田 敏和	岡川 正明	久本三木生	鈴木 典久	高橋 誠樹
杉田 桂	櫻本 展久	石栗 賢一	田邊 良幸	田邊 良幸	久本三木生	佐々木鉄男	富岡 正明	阪田 敏治
石津 裕史	林 重典	石田 勝規	小林 恒太	松本 大介	村井 義之	城戸 直幸	瀬戸 武	●ファイマン
市原 斉	和木 洋介	池内 亨	中村 良美	安井 欣也	寛 智行	川島 里美	川口 駿	●アヤマン
西村 末吉	山本 正弘	片岡 拓也	塩田 勝美	小林加奈子	小林 幸広	佐々木鉄男	中尾 龍	野田 浩二
山内 敦	田中 利治	谷 和哉	増石 利明	林 智也	谷名 基浩	水口 誠	西田タモツ	桂山 孝幸
福谷 信行	伊藤 誠	井上 忠	●バドック	車本 忠男	谷名 知子	永島 信由	国岡 道宏	小林 真澄
横井 健人	加藤 猛	竹辺 泰	片受 朋史	西野 仁貴	南 義史	坂下 直美	上野 篤司	小林 寛
坪井 清貴	三浦 淳一	板坂 栄次	勾田 緑	守屋 秀樹	今村 昭治	坂口 広昭	奥村 育江	宮崎 常利
馬場 将博	馬場 卓也	吉野 隆	横川 徳城	三村 武弘	堀川 勝明	西川 隆文	吉田 朱里	野島 進一
桑野 光章	白井 浩行	山本 紳二	寒川 宏幸	南 義史	川村 信也	長安 秀幸	林田 伸章	吉田 圭
中村理恵美	小田 拓美	馬越 大作	水谷 寿紀	藍川 都子	石井 光幸	石田 秀治	山田 雅康	小田 秀一
高野 正規	若狭 義信	松 芳之	松浦 達也	坂東 正志	横山 雄一	鈴木 一弘	松本 由美	●事務局
村上 康子	赤井 潤	小宮 晃	丸山 彰久	藤本 宏行	●レスキュー	寺田 明人	原 寛	杉山 恵
山本 信一	齊藤 薫	駒居 憲幸	園岡 健治	前川 郁子	前西 彰	松本 修	山田 孝	早田 尚代
山本 宣弘	入山 晃	松本 泰彦	中森 剛	中川 達彦	上杉 耕二	上嶋 恵	小菅 隆幸	西 由香里
広瀬 江里	別所 弘次	前川 敏彦	川端 博則	川端 博則	原田 浩介	白石 国元	●計時	村雲 祥子
高橋 英樹	山田 正仁	依田 清豪	小川 桂一	池田 悦子	濱村 康弘	丸林 勇次	牧野 真也	岡野 勝仁
松本 幸	峰山 誉	小笠原克紀	池田 哲也	和田 佳子	長谷川孝司	池田 俊二	阿部 正之	北山 貴広
井上 和紀	土田 博之	内悦 悦夫	池田 哲也	桂 佳子	新海 幸弥	伊藤真寿美	柳本 博文	華山 正義
辻井 敏行	杉山 功	村橋 辰男	西村 裕之	高鶴 光司	佐藤 力哉	清水 悟	菅井 久男	山下 一郎
高島 学	加藤 三典	松田 聡	筒井 裕二	門柳 健二	水野 英治	碓 普一郎	石山 満菜	太田 潔
宮崎由紀子	稲倉 聖司	外山 徳彦	米田 竜昇	藤下 麗	武内 計憲	阿部 正之	加藤 伸也	森嶋 猛
廣瀬 聡	加賀爪直樹	鎌倉 義和	中郷 靖彦	油谷 公平	渡辺 紳也	佐藤 哲志	伊藤 敦	小林 美鈴
山元 達央	尾原 清彦	伊藤 篤	中村 弘和	築山 知明	古池 稔一	神田 政和	池辺久美子	永田久美子
小川 泰寛	細谷 淳	伊藤 嘉浩	渡辺 俊之	小池 一成	山本 英一	日置 慎治	前田 智毅	山田 幸代
河津 孝典	井川 達規	大野 博昭	川端 智親	福原 達也	吉村 一夫	高木 広史	市野 尚美	
中野 伸彦	池田 喜人	石田 広之	西村 幸恵	休井 浩美	柴田 亨	羽尻 邦彦	高井 浩至	
久保田耕司	中出 千秋	大藤 伸治	三岡 祥勝	松崎 忍	為永 憲和	位田 幸生	津村 義則	
亀田 道也	白柳 正隆	中川 功治	渡辺 保典	田中 喜朗	星野 和義	堀木 俊孝	岡村 重寿	



# 情報満載!!ホット・バイクマガジン



USEDバイク情報誌

おやんぷゆー  
**champion.**

バイク探しならおまかせっ!

毎月  
14日発売  
280円  
(税込)  
〒180

まるちバイクマガジン

**モトチャンプ。**

毎月  
6日発売  
300円  
(税込)  
〒156

株式会社 三栄書房 (販売部)

〒169 東京都新宿区北新宿4-8-16 TEL03-3364-3812 FAX03-3368-1733

※書店に品切れの際は送料を添えて(同額の切手代用可)販売部宛に直接ご注文ください。

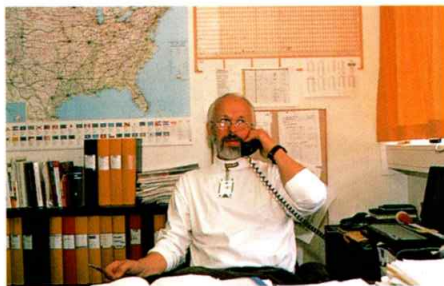




# 北の国から生まれて 北欧通信。



オーリンズは自他共に認めるサスペンション技術界のリーディングブランドです。名実共に世界の最先端を走っているといつてもいいでしょう。ストックホルムの生産ラインや研究所設備の充実ぶりはおそらく一般ユーザーをして目を見張らせるだけのものがあるでしょう。技術最優先の企業であることがはっきりしています。しかし、オーリンズの優秀性は最先端の技術だけで実現しているわけではありません。つまり、多方面から検討を重ねた場合でも、その製品を人間が操って得られる結果が、人間が求める感性に合致し、優位性を得られることを第一条件としているのです。たしかにオーリンズは機能部品ですが、それはヒューマンエンジニアリングといった考えのうえに作られているということをお忘れはしません。人間の命をあずかるオーリンズは、設計から生産まで最先端技術による管理を行いながら、すばらしいモーターサイクルライフの実現に誠意を込めた製品作りを行っています。また、日本におけるセールスディベロップメントをまかされているラボ・カロツツェリアは、アフターケア及びサービスを責任もって行っています。



● ÖHLINS DOCUMENTS  
北ヨーロッパ、スカンジナビア半島の東部を占めるスウェーデン。首都ストックホルムは実に北緯60度線に近い、まさに北の都だ。オーリンズ本社はストックホルム近郊20kmの北にある。研究所と工場には最先端の設備が整えられている。生産ラインはあえて全自動化をさげ、手造りの部分も残している。全従業員数は110名。内訳は技術者60、管理部門30、生産部門20。北極圏に近いところから、冬はマイナス40℃にもなる。静かな環境が高品質の商品開発及び生産をより確実にする。人々は、まじめで、勤勉型、コツコツと仕事に励む。

**GUARANTEE CARD**  
オーリンズの保証書とともに  
オーリンズをバックアップする総輸入元のラボ・カロツツェリアでは、オーリンズ製品を安心してお使い頂くためにオーリンズプロショップで購入した製品に対して独自の6ヶ月製品保証を設けております。オーリンズ製品は信頼できるオーリンズプロショップでご購入下さい。

ÖHLINS GUARANTEE CARD 保証書	
車種	EA 4490, 最高出力 Y 506
お名前	清水 浩一
お住所	〒1103 東京都中央区日本橋浜町1-6-8
お電話	03-3863-4333
お買い上げ日	96年6月3日
保証期間(お買い上げ日より)	6ヶ月
販売店	カロツツェリア
保証期間(お買い上げ日より)	6ヶ月
保証内容	本保証は、本保証書内容で保証期間を行うことを約束するものです。
備考	D 販売店一お客様



オーリンズのお求めは、この看板のオーリンズプロショップで。  
●表示の価格は消費税および取り付け工賃を含まない1台分セットです。●価格および仕様は改良のため予告なく変更する場合があります。●カタログをご希望の方はご覧になった誌名・号数・ご希望の車種を明記し、500円切手を同封してラボ・カロツツェリアまでお申込みください。●オーリンズ発売元・株式会社カロツツェリア・ジャパン

商品に関するお問い合わせ、ご注文は  
お客様フリーダイヤル  
**0120-81-1113**

オーリンズに関するお問い合わせは、  
**ラボ・カロツツェリア**  
〒336 埼玉県東和市中 8-23-13  
TEL 048-863-1801 FAX 048-863-1802



# SUPER BIKE



表彰台1回とやや寂しいが、全戦でポイントゲットの藤原健彦。ベテランの技と走りは健在だ。



菅生の2レース目で優勝した北川だが、いまひとつ波に乗れていない。復活のろしをあげるか。



2年連続のタイトル獲得に向け奮進する青木。実に勝率7割5分という強さを見せる。

## 加速する タイトル争い

圧倒的な強さを誇る青木拓磨がシリーズを大きくリードレースも後半戦を迎え、チャンピオン獲得へ一層の拍車がかかるがライバルたちも黙ってはいない。そして今回は2ヒートレースポイントを広げるにも縮めるにも、後半戦最大の山場となる

いよいよ全日本も、残り4戦=5レースとなった。特に1日2ヒート(15周×2)が行われ、それぞれ独立したレースとしてポイントが与えられるこの第8戦鈴鹿は、チャンピオンを狙うにも、ランキングアップを狙うにも大切な1戦だ。

### 拓磨チャンピオン決定か?

現在のランキングトップはホンダの青木拓磨。152ポイント、7戦=8レース中6勝と圧倒的な強さと速さを見せている。今年の拓磨は、ワイルドさよりも安定した速さが際立つ。一見豪快で、いかにも攻めています、というマシンをスライドさせた揺れ



START  
HEAT 1 10:30 15LAPS  
HEAT 2 15:10 15LAPS



チームメイトの北川が1勝しただけに、藤原克昭は是が非でも1勝が欲しいところ。



ランキング2位の武石。昨年までのチームメイト青木に対する作戦はいかに、そして勝機は…。

るような走りではなく、スムーズでピタリとラインに乗っている感じなのだ。そして、レースのまとめかたがうまい。勝てないレースもすべて表彰台。鎖骨骨折を押して出場した第2戦菅生も、最後は自分でマシンから降りられない状態ながら3位。

また、ファクトリー勢としてはホンダだけが使うミシュランタイヤの優位性は、特に雨の鈴鹿なら1周2~3秒は速い、といわれる絶対的なものがある。ドライのスリックも、温まりは遅いが、その分後半でもタレない。ただし、拓磨の安定した速さは、ミシュランにたよったものだけではない。それ以上に、拓磨本人のレースへの集中力

が、どのレースでも安定していることが大きい。もちろん、それにはチームのキッチンとしたバックアップがあってこそだが。

その拓磨は、この鈴鹿2ヒートで、優勝と3位=合計35ポイントを獲得すると、早くも自力で2年連続チャンピオンを決定し

8耐優勝で勢いのある芳賀(右)は前戦2位と、今回も要注目だ。



てしまう。つまり、拓磨は残りをノーポイントで、最終戦MFJ・GPでボーナスポイント各3ポイントが加えられたとしても、誰も追いつかなくなるのだ。

## カギは第1ヒート

だからこそ、このレースの、それも第1ヒートで誰が優勝するかは大問題だ。現在ランキング2位=85ポイントで追うのは、今年ホンダからカワサキに移籍した武石伸也。まだ今シーズン未勝利だが、コンスタントにポイントをゲットしている。ただし、マシンへの慣れの問題もあって、ここまでは武石らしい豪快な走りが無い。拓磨の





今年はまだ3位が最上位の梁もあなどれない存在だ。

早々のチャンピオン決定に待ったをかけるためにも、僅かなチャンピオンへの可能性にかけるにも、とにかくこの第1ヒートで優勝するしかない。得意の鈴鹿だ。特にダンロップやヘアピン先などスロットルを開けて行くセクションは、武石の本領発揮だ。

一方、チャンピオン争いには加われないものの、その行方を大きく左右しそうなのがヤマハの芳賀紀行だ。今年史上最年少で8耐に優勝し、今最も勢いがある。紀行もYZFも8耐で証明したように、拓磨とRC45にスピードでも安定性でも決して劣らない。そして何よりも、ビッグレースを制した自信は計り知れない。8耐でペアを組んだコーリン・エドワーズが、芳賀ほどリアスライドを駆使する日本人は見たことがない、というほどのスロットルの開けかたは、本当にスーパーバイク乗りらしい。

ヤマハの一方の雄、藤原儀彦はランキング3位=83ポイント。8耐では慣れないミシュランにてこずったが、全日本は本来のダンロップ。優勝していないほうがおかしいライダーなのだから、そろそろ……。藤原の好調時に見せる1~2コーナーのスピードは圧巻だ。今シーズン、拓磨以外に優勝したライダーはふたり。第2戦菅生で全日本初優勝した芳賀紀行と、第6戦菅生第2ヒートで優勝したスズキの北川圭一だ。北川は同僚の藤原克昭とともにカワサキから移籍。ふたりともシーズン当初はチャンピオン候補であったが、評価の高かったニューGSX-Rの、新車にありがちなマイナートラブルに悩まされ、克昭がランキング



怪我で戦列を離れていた柳川も7月末の8耐から復帰。当然残りのレースでは優勝争いに絡んでくるだろう。

4位=81ポイント、北川が7位=68ポイントとやや離れた。しかし、ふたりが欲しいのは優勝。ニューGSX-Rは、第6戦菅生の2レース目で北川が挙げた1勝のみ。海外でもAMAでの1勝しかなく、WSBではまだ優勝がない。だから、チームのためにも自らのためにも、是非勝ちたいところ。克昭は鈴鹿のコースレコードホルダーでもあるのだ。克昭の身体ごとコーナーに飛び込んで行く豪快さや、北川のクリッピングポイント付近までブレーキングを遅らせる鋭い突っ込みは見ものだ。

カワサキ勢では、梁明と柳川明が8耐でいい走りを見せていたから、同じ鈴鹿で意地を見せたいところ。梁の深いバンク角と、柳川のキレのいい身体の動きは特徴的で、走りを見ていて楽しいライダーでもあるし、その特徴で好不調もわかる。



WSB菅生でホンダに乗った宗和。さて鈴鹿2ヒートでは？

その他、ホンダファクトリー1年生の武田雄一も徐々に才能を発揮し始め、ドライブでの速さもトップクラスに迫ってきた。また、地元モリワキの新井秀也と和泉美智夫、ヨシムラの芹沢太麻樹などは、ファクトリー勢に割って入る実力を持っている。特にモリワキのふたりは、バンク角の深いリスクキーな走りだけれども、一発の速さではトップクラスだ。太麻樹は、モトクロス出身なだけに滑りに強く、ウエットになるとダークホース的な存在だ。そしてチームファンデーションのドゥカティコンビの生見友希雄と井筒仁康。生見は常にファクトリー勢を食う安定感があり、井筒には速さがある。ふたりとも表彰台は狙える。そして宗和孝宏。自らのチームでドゥカティで参戦していたけれど、8耐ではホンダファクトリーの第3ライダー、WSBの菅生にはファクトリーRC45で参戦と、動向が注目される。

また、9月のレースはコースレコードの出やすいことも注目だ。確かに残暑でコンディションは最高ではないものの、各チームのマシンが仕上がっている時期であること、ライダーが完全にマシンをものにしていくことなどが要因。とにかく今シーズンの山場。そして、何といても第1ヒート、誰かが勝つか？問題なのだ。

### スーパーバイククラス・ポイントランキング(トップ15)

順位	ゼッケン/ライダー	マシン	ポイント合計	第1戦 鈴鹿 3/17	第2戦 菅生 4/28	第3戦 筑波 5/19	第4戦 鈴鹿 6/9	第5戦 富士 6/23	第6戦 菅生 7/7	第7戦 美祿 8/11	第8戦 鈴鹿 9/8	第9戦 筑波 9/22	第10戦 TI 10/6	第11戦 菅生 11/3
1	青木 拓磨	H-RVF/RC45	152	20	15	20	20	20	17	20				
2	武石 伸也	K-ZX-7RR	85	11	9	9	8	15	15	9				
3	藤原 儀彦	Y-YZF750	83	6	8	17	13	10	13	3				
4	藤原 克昭	S-GSX-R750	81	17	0	8	5	17	11	15				
5	梁 明	K-ZX-7RR	78	15	13	15	11	0	9	0				
6	45 武田 雄一	H-RVF/RC45	77	8	7	10	17	8	17	0				
7	7 北川 圭一	S-GSX-R750	68	0	10	11	10	11	6	20				
8	10 芳賀 紀行	Y-YZF750SP	59	13	20	0	-	9	0	0				
9	19 芹沢太麻樹	S-GSX-R750	49	10	5	-	9	2	7	10				
10	8 生見友希雄	D-916	45	0	6	0	6	13	0	13				
11	6 柳川 明	K-ZX-7RR	41	0	17	13	-	-	-	-				
12	76 鈴木 誠	D-916	24	0	0	0	4	1	8	6				
12	14 鶴田 竜二	K-ZXR750R	24	2	2	6	0	5	0	8				
14	86 井筒 仁康	D-916	23	-	-	7	0	0	5	11				
15	26 和泉美智夫	H-RVF/RC45	21	9	1	3	2	6	0	0				

(公式得点) 1位→20点、2位→17点、3位→15点、4位→13点、5~15位→11~1点

### 大量得点の大チャンス 2ヒートの得点に変更に

2ヒートレースは、それぞれのレース距離が短くなるため、通常とは違ったスプリントレースが展開される。そして、得点についてもこれまででは、1ヒートで通常の半分のポイントしか与えられなかった。だが、今年から通常と同じポイントが与えられるようになった。つまり、1大会で2レース分の得点チャンスがあるということだ。ということは、最大で40ポイントの差がつくことになる。これはシリーズポイントの上では非常に大きい。リードしている側にとっては差を広げる絶好のチャンスであり、追いかける側にとっては、一気に差を詰めたところだ。タイトル争いも大詰めを迎えた今、このチャンスを生かせるかどうか？大きなカギとなってくるのだ。



# SUPER BIKE MACHINES

## HONDA RVF/RC45



①青木拓磨 (TEAM HRC)

水冷90度V型4気筒カムギアトレンDOHC4バルブ、ボア・ストローク72×46mm、749ccのRVF/RC45は、デビュー3年目ながら依然トップスピードで他を圧倒する。電子式燃料噴射システムPGM-FIに加え、4輪F1のV12エンジンで採用されたいわゆる可変ファンネルVIS (Variable Induction System=可変吸気管長システム) を装備するなど、吸気系は完全にコンピュータ制御。走行風を積極的に取り入れ加圧するラムエアシステムとの組み合わせで、最高のパワーと好燃費、そして扱いやすいエンジン特性を得ている。

その可変ファンネルは、3本のガイドにそってエアファンネルがエンジン回転数やスロットル開度に合わせて伸縮。エアファンネルは短くと高速型、長くと低速型といわれるが、これを可変させることですべての領域に合ったエアファンネル長を得ようというものだ。スロットルボディはφ46mmと大径。可変ファンネルは、桜井ホンダのマシンなどにも搭載されている。

フレームはメイン部分が日の字断面で、ステアリングヘッ



②和泉美智夫 (NTTモリワレーシング)

ドに近い部分は下側を追加した目の字断面となる凝った構造。スイングアームは片持ちのプロアーム。タイヤはファクトリーがミシュラン前後17インチ。またファクトリー以外では最速のRC45であるモリワキは、ホンダとの共同開発である前後連動ブレーキを装着している。

## KAWASAKI ZX-7RR



⑥柳川 明 (KRT RR)

今シーズン、ベースマシンを一新して超ショートストロークとなったカワサキ。水冷並列4気筒DOHC4バルブエンジンは、ボアが750cc 4気筒エンジン最大の73mmでストロークは44.7mm (従来は71×47.3mm)。特に高回転域でのスムーズさが特徴だ。前面のラムエアダクトも従来型の1コから2コとなった。キャブはFVKD41 (ケイヒンFCRのカワサキ呼称) を使用。また、高回転域でのバルブ駆動をより正確に行うため、カムギアトレン化したエンジンも存在する。ショートホイールベースで、ダンロップの前後16.5インチとの組み合わせでクイックなハンドリングを狙う。前後サスはオーリンズで、フロントブレーキキャリアはニッシン6ピストン。マフラーは社外のピート製を採用している。

## YAMAHA YZF750



⑤藤原慎彦 (Y.R.T)

水冷前傾35度並列4気筒DOHC5バルブエンジン、ボア・ストローク72×46mm、749ccのYZF750。高速域での伸びには定評がある。エキゾーストパイプは排気ポート直後がオーバル断面、その後正円断面となる凝った構造で、これはエンジンの過渡特性の良さと同燃費につながっている。キャブはケイヒンFCR41。ラムエアの新気導入口はカウルではなくラジエーター上部にある。前後サスはオーリンズで、フロントブレーキキャリアはニッシン6ピストン。タイヤはダンロップで、8耐時からフロント17インチ、リア16.5インチの組み合わせとなった。この組み合わせとフレーム補強の仕様がまとまったため、ヤマハ本来の素直なハンドリングが戻ってきたようだ。今年の8耐を制したのはまだ記憶に新しい。

## SUZUKI GSX-R750

今年フレームからエンジンまですべて一新したGSX-R750。水冷前傾25度並列4気筒DOHC4バルブ、ボア・ストローク72×46mm、749ccは、バルブ挟み角、ポート配置、燃焼室形状などラムエアとダウンドラフト吸気を行うのに最適といわれる。また、エンジン幅や前後長を極力詰めたコン



⑧岸沢太麻樹 (ヨシムラ・スキGPIプラス)

パクトな設計だ。キャブは、今年からの新制度公認キャブを利用してミニTDMR40に交換されている。キャブの中身は、ヨシムラは有名なMJN (通常のハリ式ジェットニードルのかわりに多数の横穴の開いたパイプを使う) だが、ファクトリーも同様のパイプを使っているともいわれている。

フレームはアルミツインスパーで、全車中最もショートホイールベースといわれる、1350~1360mm近辺か。ファクトリーの前後サスはカヤバで、フロントブレーキキャリアはトキコ6ピストン。ヨシムラは前後サスがオーリンズで、リアショックのリンクやフロントフォークの上下ブラケットも独自の削りだし。キャリアはニッシン6ピストンと、これも異なる。また、ヨシムラは点火系などのコンピュータも独自で開発したものを使う。ファットな印象を受けるカウルは、500ccからフィードバックした空力データを元に設計されたもので、独特のテールカウルはスリップストリームにつかせるべく効果がある。タイヤはファクトリーがダンロップの前後16.5インチで、ヨシムラは前後17インチ。

③藤原克昭 (ラッキーストライク・スキ)



## DUCATI 916



⑥生見友希雄 (チーム・ファンデーション)

水冷90度L型2気筒DOHC4バルブエンジンのドゥカティ916は現在、チームファンデーションの2台 (生見友希雄、井筒仁康) と、チームカタヤマ (鈴木誠、宗和孝宏) と4台が参戦中。基本はスタンダード916のエンジンを2mmボアアップした96×66mmの955cc仕様。これは限定発売の市販レーサー、コルサだ。さらに宗和は98mmボアの955ccファクトリー仕様も持つ。独特の強制開閉バルブ機構・デスモドロミックやウェーバー/マレリ製2インジェクターの電子燃料噴射、パイプフレーム、片持ちスイングアームなどいかにもイタリアらしい個性の塊だ。前後サスはオーリンズで、ブレーキはブレンボ。タイヤは前後17インチで、リアはコースによって通常より狭い5.75インチ幅を使用することもある。





昨年はケガに悩まされながらも見事チャンピオンを獲得。今年はどうなコンディションでも安定した走りを見せ、圧倒的な強さで2連覇にむけばく進中。今回の2ヒートで早くもチャンピオン獲得を決めるかどうか、注目が集まる。



## 1 青木拓磨

**Takuma AOKI**

**HONDA RVF/RC45  
TEAM HRC**

1974年2月24日生まれ(22歳) A型 群馬県出身  
93年全日本GP250クラス・ランキング2位  
鈴鹿8耐3位入賞(with マイク・スミス)  
94年全日本スーパーバイク・ランキング2位  
95年全日本スーパーバイク・チャンピオン  
96年全日本スーパーバイク参戦 (第1戦鈴鹿 優勝/  
第2戦菅生 3位/第3戦~第5戦 優勝/  
第6戦菅生ヒート1 優勝、ヒート2 2位/第7戦美祢 優勝)  
鈴鹿8耐3位入賞(with カール・フォガティ)  
WSB菅生第2レース 優勝

第7戦までのランキング1位 152ポイント



TT F1時代から長らくホンダに乗ってきたが、今年カワサキに衝撃の移籍。昨年はチームメイトの青木と最終戦までチャンピオンを争った。今年は勝利こそまだないが、ランキング2位につけ、打倒拓磨の一番手として期待される。



## 2 武石伸也

**Shinya TAKEISHI**

**KAWASAKI ZX-7RR  
KRT RR**

1967年10月5日生まれ(28歳) A型 北海道出身  
91年国際A級昇格  
92年全日本TT F1クラス・ランキング3位  
鈴鹿8耐3位入賞(with 岩橋健一郎)  
93年全日本TT F1クラス・ランキング2位  
94年全日本スーパーバイク・ランキング5位  
鈴鹿8耐3位入賞(with 伊藤真一)  
95年全日本スーパーバイク・ランキング2位  
96年全日本スーパーバイク参戦  
(第5戦富士 3位/第6戦菅生ヒート1 3位)

第7戦までのランキング2位 85ポイント



## 9 梁 明

**Akira RYŌ**

**KAWASAKI ZX-7RR  
KRT RR**

1967年10月20日生まれ(28歳) O型 東京都出身  
90年全日本TT F3クラス・ランキング3位  
91年全日本TT F1クラス・ランキング4位  
92年全日本TT F1クラス・ランキング19位  
93年全日本TT F1クラス・ランキング9位  
94年全日本スーパーバイク・ランキング8位  
95年全日本スーパーバイク・ランキング9位  
96年全日本スーパーバイク参戦  
(第1戦鈴鹿 3位/第3戦筑波 3位/  
第7戦美祢 3位)

第7戦までのランキング5位 78ポイント



## 7 北川圭一

**Keiichi KITAGAWA**

**SUZUKI GSX-R750  
ラッキーストライク・スズキ**

1967年3月24日生まれ(29歳) A型 京都府出身  
90年国際A級昇格  
全日本TT F1クラス・ランキング13位  
91年全日本TT F1クラス・ランキング8位  
92年全日本TT F1クラス・ランキング2位  
93年全日本TT F1クラス・チャンピオン  
94年全日本スーパーバイク・ランキング3位  
95年全日本スーパーバイク・ランキング7位  
96年全日本スーパーバイク参戦  
(第6戦菅生ヒート2 優勝)

第7戦までのランキング7位 68ポイント



## 45 武田雄一

**Yūichi TAKEDA**

**HONDA RVF/RC45  
TEAM HRC**

1977年11月29日生まれ(18歳) A型 埼玉県出身  
94年国内B級昇格  
鈴鹿4耐2位入賞(with 池田吉隆)  
95年サンダーバイクシリーズ・ランキング13位  
96年全日本スーパーバイク参戦  
(第4戦鈴鹿 2位/第6戦菅生ヒート1 2位)  
WSB菅生第1レース 優勝

第7戦までのランキング6位 77ポイント



## 10 芳賀紀行

**Noriyuki HAGA**

**YAMAHA YZF750SP  
テクノモーターエンジニアリング**

1975年3月2日生まれ(21歳) B型 愛知県出身  
92年鈴鹿NB-SP250・ランキング6位  
93年国際A級昇格  
全日本GP250クラス・ランキング13位  
94年全日本スーパーバイク・ランキング9位  
95年全日本スーパーバイク・ランキング10位  
96年全日本スーパーバイク参戦  
(第2戦菅生 優勝/第7戦美祢 2位)  
鈴鹿8耐優勝(with コーリン・エドワーズ)  
WSB菅生第1レース 2位

第7戦までのランキング8位 59ポイント







ヤマハのエースとしてもなじみの藤原。今年ヤマハの純ワークスチームからは藤原ただひとりのエントリーとなっている。ベテランながらも、いまだその熱い走りは健在。調子も上向いており、この辺りで勝利を挙げたいところだ。



## 5 藤原儀彦

Norihiko FUJIWARA

YAMAHA YZF750  
Y.R.T

1966年10月8日生まれ(29歳) A型 東京都出身  
86年国際A級昇格

全日本GP500クラス・ランキング6位  
87~89年全日本GP500クラス・チャンピオン  
90・91年全日本GP500クラス・ランキング2位  
92・93年全日本GP500クラス・ランキング3位  
94年全日本スーパーバイク・ランキング4位  
95年全日本スーパーバイク・ランキング5位  
96年全日本スーパーバイク参戦  
(第3戦筑波 2位)

第7戦までのランキング3位 83ポイント



昨年、カワサキからスーパーバイクにデビュー。開幕戦菅生の2ヒート目でいきなり優勝し、一躍シンデレラボーイに。そして今年、スズキに電撃移籍。4月のマールポクGP500ccクラスに出場し、序盤は世界の強豪を抑えトップを快走した。



## 3 藤原克昭

Katsuaki FUJIWARA

SUZUKI GSX-R750  
ラッキーストライク・スズキ

1975年3月27日生まれ(21歳) O型 山口県出身  
92年鈴鹿4耐優勝(with 青木治親)  
93年国際A級昇格

全日本GP250クラス・ランキング18位  
94年全日本GP250クラス・ランキング3位  
95年全日本スーパーバイク・ランキング3位  
鈴鹿8耐3位入賞(with 柳川 明)  
96年全日本スーパーバイク参戦  
(第1戦鈴鹿 2位/第5戦富士 2位/  
第6戦菅生ヒート2 3位)

第7戦までのランキング4位 81ポイント



## 19 芹沢太麻樹

Tamaki SERIZAWA

SUZUKI GSX-R750  
ヨシムラ・スズキ・GP1 プラス

1972年9月28日生まれ(23歳) O型 埼玉県出身  
89年モトクロス国際A級昇格  
92年ロードレースへ転向  
93年スーパーカップイースタンシリーズ  
GP250クラス・チャンピオン

94年国際A級昇格 全日本スーパーバイク参戦  
95年全日本スーパーバイク・ランキング21位  
96年全日本スーパーバイク参戦

第7戦までのランキング9位 49ポイント



## 6 柳川 明

Akira YANAGAWA

KAWASAKI ZX-7RR  
KRT RR

1971年7月15日生まれ(25歳) O型 鹿児島県出身  
90年鈴鹿4耐優勝(with 宇川 徹)  
91年国際A級昇格

92年全日本TT F1クラス・ランキング6位  
93年全日本TT F1クラス・ランキング5位  
94年全日本スーパーバイク・ランキング10位  
95年全日本スーパーバイク・ランキング6位  
鈴鹿8耐3位入賞(with 藤原克昭)  
96年全日本スーパーバイク参戦  
(第2戦菅生 2位)

第7戦までのランキング11位 41ポイント



## 8 生見友希雄

Yukio NUKUMI

DUCATI 916  
チーム・ファンデーション

1966年3月18日生まれ(30歳) A型 鹿児島県出身  
87年国際A級昇格  
92年全日本GP250クラス・ランキング11位  
93年全日本GP250クラス・ランキング6位  
94年全日本スーパーバイク・ランキング15位  
95年全日本スーパーバイク・ランキング8位  
96年全日本スーパーバイク参戦

第7戦までのランキング10位 45ポイント



## 76 鈴木 誠

Makoto SUZUKI

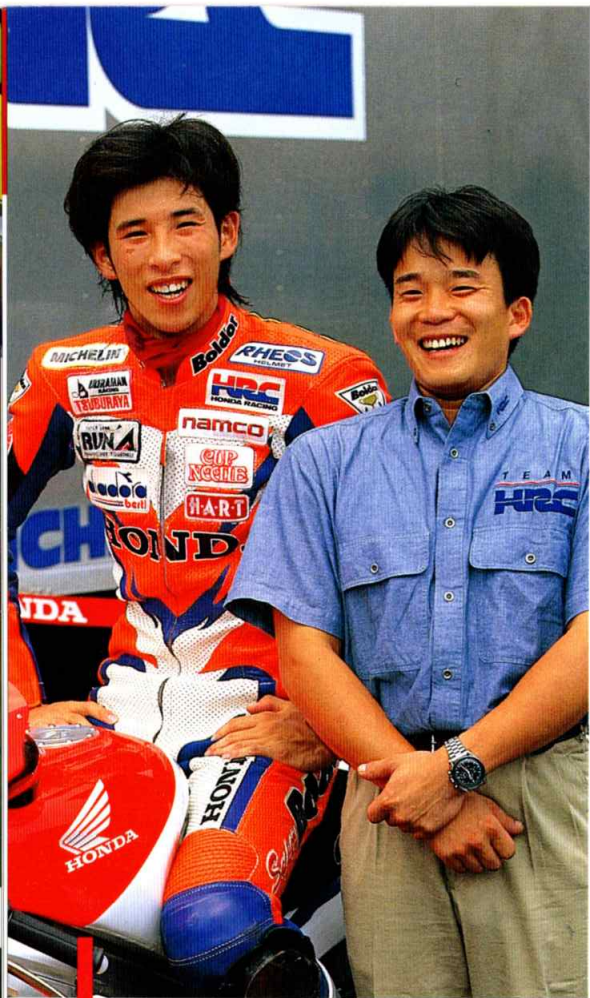
DUCATI 916  
TEAM・KATAYAMA

1964年7月17日生まれ(32歳) A型 静岡県出身  
90年国際A級特別昇格  
全日本GP250クラス・ランキング24位  
91年全日本GP250クラス・ランキング19位  
92年全日本GP250クラス・ランキング16位  
93年全日本GP250クラス・ランキング9位  
94年全日本スーパーバイク・ランキング19位  
96年全日本スーパーバイク参戦

第7戦までのランキング12位 24ポイント







## 青木拓磨

担当メカニック

岩野秀気●いわの ひでき 32歳 メカニック歴8年

## 世界へ行くことになったら、ぜひ一緒に行きたい

岩野さんは、僕にとっての女房役。マシンの悪い所だけじゃなくて、ライダーの悪い所も直してくれる最高のメカニック。何でも話し合えるし、何でもふたりで解決できると思ってる。特に今年は、ふたりとも気合いが違うから、それが成績に表れているんだと思う。もし世界GPに行くことになったら、是非、一緒に行きたいな。けど、その前にやらなければいけないこと分かってるから心配しないでね。岩野さん。

拓磨を初めて見たのは91年全日本250の西日本。"追い下げ"のレースで、印象はあんまりなかった。その拓磨のメカの話がきて、どうしようかな?と考えている間に、チーフメカとして仕事することが決まっていたという感じだった。会ってみると顔が親父にそっくりで、まだ子供だった。

でも、拓磨は素直ですごく人間臭い。メカとしては、やり甲斐のある奴なんだ。やりはじめた、最初の頃はまだ18歳で、上手く言葉でマシンの挙動をいい表せないんだけど、表情や態度、走り方に、いいことが表れるんだ。ストレートに、拓磨の感じたことが伝わってくる。だから、メンタルな部分で走りが変わってしまう。その人間臭さが拓磨の魅力だと思う。

今ではマシンのことも理解しているし、何をしたいのか、探ることはなくなったけど、その人

間臭い魅力は今も変わっていないよ。つき合い始めて4年目、その間の拓磨の成長は大きい。今では、いなくても、自分がやらなければならないことを理解してくれる。特に今年は、世界GPへという明確な目標が、拓磨を大人にしたと思う。事前テストで、きっちりセッティングを詰めて、レースウィークは走り込んで、調子を整えるということが実行できている。それが、勝ちにつながっているんだと思う。

拓磨とは対等に話ができる。どっちが上でも下でもない。拓磨も、いいたいことは何でもいう。本気で怒ってしまうこともあるけど、それを拓磨は正面から受け止めてくれる。とても、いい関係になったと思う。

一緒に世界GPへ?と聞かれることが多いんだけど、なんともいえない。いつも、俺は拓磨にいつても、誰と組んでも、拓磨のカラーのチームにしなきゃ駄目だってね。だから、俺と一緒にじゃなきゃ力が出ないというのは、本当の力じゃないと思う。俺も、拓磨でなければ駄目だというのは、本物じゃないと思うんだ。だから、それぞれが、離れ離れになっても、いい仕事ができるようになりたいと思っている。でも今は、一緒にチャンピオン獲得に向けて、精一杯頑張ることだけ考えていたい。

いつも支えてくれるメカニックを紹介します

# ボクと彼の

## 同世代だから、なんでも遠慮なく話し合ってます

僕はデビューが早かったから、いつも、ついてくれるメカニックやエンジニアは年上の人ばかりで、教えてもらったり、叱られたりしてきた。でも、今年、一緒にやってる星野君は同世代。レース歴では、僕の方が先輩だから、ちょっとだけ偉そうにさせてもらってる。なんでも、話し合ってる。一緒に決めている。僕自身もバイクの勉強ができるし、充実してると思うし、いい関係ができる。奴のためにも、きっちり成績を残したいね。

僕がバイクに興味を持って、レース雑誌を読みあさっていた頃、活躍していたのが、エディー・ローソンや藤原さん。藤原さんは3年連続で全日本500チャンピオンですからね。もう、スゴイなア、スゴイ人だなんて思ってた。憧れの人です。その人と一緒にレースができるようになるとは、思ってもみなかった。

僕はヤマハに入社して、レース部門に配属となって、最初に担当したのはエディーさんで、デイトナに出場した時。その後は、永井康友さんが出場した鈴鹿200kmや鈴鹿8耐をサポートする形で仕事をさせてもらった。全日本をフル参戦するのは今年からで、きちんとライダーと向き合うのも今年が初めて。メカニックというより、エンジニアとしてのウエイトの方が大きい。藤原さんが気持ち良く走れるバイクにしたいと頑張っています。

藤原さんは、クールそうに見えるけど、実は楽しい人。会社の飲み会でも、気軽に参加してくれるし、気さくで優しい。いつも、奢ってもらって

ばっかり。普段は本当に子煩悩ないっぺ。ライダーとしては真面目で、トレーニングとかも、しっかりやっている。年齢的には自分と変わらないけど、体力面では、僕なんて、お話にならないくらい。そして、みんなも知っている通り、勝てるライダー。実力がしっかりとある人なんで、今年の成績は、本人の実力ではないと思う。なんとか実力通りの走りをしてもらえるようにしなきゃとプレッシャーを感じてる。

藤原さんは開発ライダーとしても力があると思う。なんでもハッキリしてくれるし、エンジンの微妙な違いや症状も、理解してくれる。一生懸

命にテストを繰り返しているんだけど、まだ、満足できるレベルにはなっていない。夢に見ることもある。ああー、あそこを変えてみたら、馬力が上がるんじゃないかとか、操縦性が上がるんじゃないかって、それで、飛び起きることもある。きちんとしたマシン造りをして、藤原さんに認めてもらいたい。自分とはやられてられないといわれないうちに、しっかりしなきゃと思ってる。僕の夢は藤原さんを勝たせることだから……。

## 藤原儀彦

担当メカニック

星野 仁●ほしの ひとし 29歳 レースメカ歴5年







普段の柳川は、真面目を絵にかいたような奴。奥さんとも仲がよくて、いつも一緒。精神的なコントロールは、奥さんがきちんとしてくれるから、俺たちも助かってる。それに、一緒に仕事をすると分かるんだけど、本当にメカニックとしてはやりやすいライダー。細かいことはいわない。いいたいことは、はっきりと分かりやすく伝えてくれる。とにかく、テストでも予選でもピットインの回数が少ない。とにかくよく走る。コースインするのも、いつも一番最初。帰ってくるのは最後。細かくマシンをいじるより、自分が走って、自分の走りや、なんとかしようという気持ちか伝わってくる。だから、車のベースをきっちり造ってやるのができれば、答えを出してくれるんだろうと思う。いつも、バイク以上の走りをしようと、頑張り過ぎるから、転倒してしまうことも多いけど、その、かむしゃらさか柳川の良さでもあるから、無理をしなくてもいいバイクを造ってやりたい。

## 柳川 明

担当メカニック

エンジン担当・岡本 学(左) ●あかもと まなぶ 30歳 メカニック歴10年  
車体担当・斉藤雅彦(右) ●さいとう まさひこ 30歳 メカニック歴7年

スーパーバイクのチームの中で、僕らの関係が一番だって胸が張れるくらい、最高のメカニックですよ。ふたりとも、ノリがいいんです。気持ちをのせてくれるのがうまい。イケイケのムードを上手に作ってくれる。だから気持ち良く走れる。ノリ過ぎて、こけてしまうのは、自分が悪いと反省してますけど、本当に一生懸命にやってくれて

ます。早く勝って、泣かせたいですね。うちのメカニック、きつと泣くと思うんですよ。

柳川は才能あるライダーということで、国際A級に昇格した時から有名だった。でも、なかなか勝ちに恵まれない奴だなと思っていた。その柳川を担当することになった時は面白いなと思った。俺たちで、柳川の才能を引き出してやるのができたら最高だなとね。元々速いライダーだから、俺たちが走りに関していうことは何もない。柳川がイメージしているマシンを造ることが先決だと思っている。

**早く1勝を挙げて、メカニックを泣かせたいですね**

柳川は性格がいいから、バイクの症状を伝えるんでもこっちの気持ちになっていってくれる。怒ったりしたことはない。だからこそ、なんとかしなきゃと思う。鈴鹿8耐の時も、2位を走行していたのにトラブルで順位を落としてしまった時、ピットの裏で大きな声で叫んで辛さに耐えていた。柳川は1番になれるライダーだし、チャンピオンになれるライダーだから、俺たちは、その手助けができるように頑張っていきたいと思う。

# 深〜い関係

あまり表には出ないが、ライダーは多くの人のサポートがあってこそ戦える。中でもメカニックは、間近でライダーを支える、まさに縁の下の力持ちだ。深い信頼関係で成り立つ名コンビは、果たしてどんな絆で結ばれているのか

## 辛いことがあると、頑張ろうって励まし合っているんだ

高橋さんの第一印象は男前で爽やかな人。その印象は、つき合うようになってからも変わってない。すごく話がしやすいし、ライダーの気持ちを理解してくれる。いつも、僕の立場になって考えてくれて、バイクを乗りやすいものにしようと努力してしてくれる。デビューマシンだから、メカニックの苦勞も多い。だから、高橋さんにとっても、辛いことがあると思うけど、力を合わせて頑張ろうって、いつも励まし合っているんだ。

克昭の存在を意識したのは、RS250Rでワークスをやっつけて優勝した94年の富士の時。頑張ってるな、きつといいライダーになると思っていた。一緒に仕事をするようになるとは思ってなかったけど、克昭がスズキに移籍。克昭のチーフメカとして話が合った時はうれしかったね。メカとしても、デビューマシンを造り上げていくやり甲斐もあるし、才能ある克昭とやれるというのは、すごく楽しいことだと思った。克昭は世界GP500を目指しているし、きつとそこで活躍するライダー。だから、責任重大だと思う。大事に育ててあげたいと思っている。

開幕戦が俺と克昭にとっても、マシンにとっても初めてのレースだったわけだけど、正直2位に入れるとは思わなかった。フリー走行、予選とタイムが出ていたから、行けるかなという手応えは

あったけど、あそこまで走ってくれるとは思っていなかったから、克昭のポテンシャルに驚いた。

克昭は性格のいい子。マシントラブルでリタイアした時は、ライダーにとっても、メカにとっても辛い。そんな時、感情的になってしまうのは当たり前だけど、克昭は「あの時、態度悪くてすみません」って謝ってくる。そして、「次、頑張らしよう」っていうんだ。本当は、こっちがライダーを気遣いしなければならぬのに、克昭はメカの気持ちを察してくれる。

ライダーとしても、気分を上手に乗せてあげることができれば、期待以上の走りをしてくれる。だから、精神的なフォローが上手にできるようにしていきたいと思っている。

今年はデビューマシンを造り上げるために、テストを繰り返して、万全の体制でサーキット入りしているけど、真剣勝負のレースでなければ出てこない問題もある。だから、今年は克昭にとって辛いシーズンかもしれない。それでも、車を造り上げることを勉強できることは、将来的にはプラスになるはず。そして、克昭が思いっきり自分の走りができるように、俺たちは、精一杯の努力をする。勝たせてやりたい、そして、チャンピオンになって、世界GPへと夢を叶えて欲しい。そして、その時は俺も一緒についていきたいね。

## 藤原克昭

担当メカニック

高橋和裕 ●たかはし かずひろ 35歳 メカニック歴10年







# ダリツプ・ダリツプ・ダリツプ。



全国のサーキットの、さまざまなコーナーでそのグリップ力をいかに発揮している

**BT-90 RADIAL。**

そのグリップ性能の高さも、そのグリップ持続性も、  
すべては「V」のために。

## **RACE TYPE BT-90 RADIAL**

Front

Rear



**BATTLAX**  
from BRIDGESTONE MOTORSPORT



## RFC会員特典概要

①1996年全日本選手権シリーズ全11戦共通パス（観戦券+パドックパス）進呈

※特別会員のみ（限定100名）

特別会員にのみ発行されるスペシャルメンバーズカードは、1996年全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦において有効で、このカードを提示すれば、一部エリアを除いて観戦およびパドックエリアまで入場が可能。

②観戦券・パドックパスの割引販売

1996年の全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦において、RFC会員カードを提示すると、観戦料金が当日料金の30%OFF、パドックパスが当日料金の10%OFFで割引購入可能。会員1名様に付き1枚のみ有効。また、鈴鹿日本GP・鈴鹿8耐・WSB(SUGO)の各世界選手権の観戦券・パドックパス等も割引販売がある。

③ビットウオーク開催サーキットで、参加無料

④パドッククラブのご利用

⑤入会記念品進呈

⑥大会会場記念品進呈（先着50名様）

⑦会報の発行

⑧レース情報提供サービス（有料）

⑨サーキット体験走行などのイベントへの優待参加

⑩宿泊観戦バックへの優待割引参加

⑪オリジナルグッズの割引購入

⑫各サーキットの付帯設備における割引等の特典

## RFCイベントとは？ その一例をご紹介します

### ●サーキット体験走行

レース終了後のサーキットを全日本ライダーが先導してのサーキット体験走行する貴重な機会!!



### ●トークショーイベント

昼のインターバルに行なっているライダーのトークショー。コース上の特設ステージなどで開催!!

### ●ライダーとの交流イベント

ライダーと身近にコミュニケーションできる交流イベントも開催。サーキットによって土曜日または日曜日の開催となります。

# ロードレースファンクラブ

ビットウオークが無料!!

観戦券・パドックパスが大幅割引!!

全日本ロードレース選手権シリーズをファンが一体になって盛り上げながら、全日本ライダーとコミュニケーションしたり、サーキットライフも思いっきり楽しんでしまおうというのが、RFCロードレースファンクラブのコンセプト。MFJプロモーション実行委員会が運営主体となり、全日本ロード開催6サーキット、2輪メーカー4社、国際ライダーの統括団体であるRMA選手会、そしてライダーたちが一体となって盛り上げようとしているから、全日本ロードをもっと楽しむための特典が満載!!

## RFC入会方法

### ●RFC年会費（入会金は不要です）

RFC一般会員/4,000円

RFC特別会員/30,000円（限定100名）

★1996年の特別会員の入会受付は、定数に達したため終了しました。ご了承願います。

### ●申込方法（二通りあります）

住所、氏名、「RFC入会希望」とお書きいただき、RFC事務局にお送り下さい。折り返し入会申込書を送付いたします。電話・FAXでも受け付けます。

全日本ロードレース選手権シリーズ全11戦にて設置されるRFCロードレースファンクラブのブースでも受付を行なっています。サーキットで入会したい人は、ブースにて入会手続きをして下さい。この場合、入会したその場でカードの発行を行ないますので、入会と同時に特典が受けられます。

### ●申込・お問い合わせ先

RFC事務局（アバンテック ジャパン,INC.内）

名古屋市西区則武新町4-4-19

SG名古屋ビル5F 〒451

☎.052-565-0501

FAX.052-565-0502

入会受付  
イベント参加受付  
グランドスタンド  
付近のブースにて  
実施中!!

**RFC JAPAN**  
ROAD RACE  
OFFICIAL F.C  
MemberShip

●お問い合わせは...

RFC事務局

名古屋市西区則武新町4-4-19 〒451

☎.052-565-0501 FAX.052-565-0502

**MFJ**  
MOTORCYCLE FEDERATION OF JAPAN

**SUPERBIKE**  
JAPAN



# ENTRY LIST

## SUPER BIKE

参加台数62台 決勝出走台数44台  
決勝スタート第1ヒート10:30 15周/第2ヒート15:10 15周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
1	A	青木 拓磨 TAKUMA AOKI	22	群馬	ホンダ RVF/RC45	TEAM HRC		
2	B	武石 伸也 SHIN'YA TAKEISHI	28	北海道	カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
3	B	藤原 克昭 KATSUAKI FUJIWARA	21	静岡	スズキ GSX-R750	ラッキーストライク・スズキ		
5	B	藤原 儀彦 NORIHIKO FUJIWARA	29	静岡	ヤマハ YZF750	Y.R.T.		
6	A	柳川 明 AKIRA YANAGAWA	25	静岡	カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
7	B	北川 圭一 KEIICHI KITAGAWA	29	静岡	スズキ GSX-R750	ラッキーストライク・スズキ		
8	A	生見 友希雄 YUKIO NUKUMI	30	東京	ドゥカティ 916	チーム・ファンデーション		
9	A	梁 明 AKIRA RYŌ	28	兵庫	カワサキ ZX-7RR	KRT RR		
10	A	芳賀 紀行 NORIYUKI HAGA	21	愛知	ヤマハ YZF750SP	テクノモーターエンジニアリング		
13	B	長谷川 克憲 KATSUNORI HASEGAWA	28	千葉	ヤマハ YZF750SP	PJ1 MAX KLEVER		
14	A	鶴田 竜二 RYŪJI TSURUTA	30	愛知	カワサキ ZX-7RR			
15	A	塚本 昭一 SHOICHI TSUKAMOTO	36	兵庫	カワサキZX-7RR	カワサキレーシングチーム		
16	B	金安 智彦 TOMOHIKO KANEYASU	35	新潟	ホンダ RVF/RC45	Team 桜井ホンダ		
17	B	小林 敏也 TOSHIYA KOBAYASHI	29	滋賀	ホンダ RVF/RC45	TeamELAN&RGNIWA		
19	B	芹沢 太麻樹 TAMAKI SERIZAWA	23	埼玉	スズキ GSX-R750	ヨシムラ・スズキ・GP1 プラス		
21	B	新井 秀也 SHŪYA ARAI	30	愛知	ホンダ RVF/RC45	NTTモリワレーシング		
23	B	西嶋 修 OSAMU NISHIJIMA	26	大阪	カワサキ ZXR750R	BEET IGOL OIL		
26	B	和泉 美智夫 MICHIO IZUMI	28	大阪	ホンダ RVF/RC45	NTTモリワレーシング		
29	A	賀来 聡介 TOSHIYUKI KAKU	25	東京	ヤマハ YZF750SP	PJ1 スガヤスピード&SUGO		
30	A	赤木 哲也 TETSUYA AKAGI	25	静岡	ホンダ RVF/RC45	ホンダ浜友会浜松エスカルゴ		
32	B	原口 祐二 YŪJI HARAGUCHI	28	三重	ホンダ RVF/RC45	爽風会・鈴鹿レーシングチーム		
36	A	泉名 英男 HIDEO SENMYŌ	31	埼玉	ホンダ RVF/RC45	向陽会ドリームレーシングチーム		
37	A	筒井 秀明 HIDEAKI TSUTSUI	29	埼玉	カワサキ ZXR750R	RS-ITOH		
40	B	鎌田 学 MANABU KAMADA	26	北海道	ホンダ RVF/RC45	Team 桜井ホンダ		
41	A	宗和 孝宏 TAKAHIRO SŌWA	30	兵庫				
42	B	多賀 雄一郎 YŪICHIRO TAGA	25	兵庫	ホンダ RVF/RC45	TEAM ASA		
43	A	井村 和弘 KAZUHIRO IMURA	24	京都	カワサキ ZXR750R	カストロール・チームボンバー		
44	B	深見 貴広 TAKAHIRO FUKAMI	26	愛知	ヤマハ YZF750SP	クレバーウルフレーシングチーム		
45	A	武田 雄一 YŪICHI TAKEDA	18	埼玉	ホンダ RVF/RC45	TEAM HRC		
46	B	宮崎 裕二 YŪJI MIYAZAKI	27	兵庫	ホンダ RVF/RC45	ライダーズクラブキタノRT		
47	A	佐藤 清和 KIYOKAZU SATŌ	29	栃木	ホンダ RVF/RC45	オートテクニックスポーツ		

●SUPER BIKEの見どころ▷12~17ページ



No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
48	B	西村 慶太 KEITA NISHIMURA	31	埼玉	ホンダ RVF/RC45	むさしの会 狭山レーシング		
49	A	水澤 保 TAMOTSU MIZUSAWA	27	滋賀	カワサキ ZX-7RR	グリーンクラブ&山科カワサキ		
50	B	松原 泉 IZUMI MATSUBARA	27	埼玉	カワサキ ZXR750R	RS-ITOH&酒巻クリニック		
51	A	柳 賢一 KENICHI YANAGI	29	群馬	カワサキ ZXR750R	Team Shiota		
52	B	菊川 公正 KŌSEI KIKUGAWA	29	愛媛	カワサキ ZXR750R	Team BB		
53	A	小林 裕樹 HIROKI KOBAYASHI	27	大阪	スズキ GSX-R750	GARフィールドタキオンRSK		
54	B	西田 浩工 HIROTADA NISHIDA	29	北海道	ホンダ RVF/RC45	くっちゃん未来21チームエラン		
55	A	佐竹 祥語 SHŌGO SATAKE	26	京都	カワサキ ZXR750R	京都スーパースポーツ ☆		
56	B	織岡 範行 NORIYUKI OROKA	27	京都	ホンダ RVF/RC45	TEAMVITALSPIRIT		
57	A	中谷 真也 SHIN'YA NAKATANI	26	兵庫	カワサキ ZXR750R	チーム阪神ライディングスクール		
58	B	今井 伸一朗 SHIN'ICHIRO IMAI	30	大阪	カワサキ ZX-7RR	チーム阪神ライディングスクール		
59	A	山中 正之 MASAYUKI YAMANAKA	28	神奈川	ホンダ RVF/RC45	ブラックハニービー		
60	A	山川 守 MAMORU YAMAKAWA	43	愛知	カワサキ ZXR750R	チャレンジング・ヤマカワ		
61	B	佐々木 栄司 EIJI SASAKI	29	静岡	スズキ GSX-R750	JAJA TEAM タイタン		
62	A	松島 裕 YŪ MATSUSHIMA	31	神奈川	ヤマハ YZF750SP	チームエバタ&ケンタウロスOC		
63	B	高橋 徹 TŌRU TAKAHASHI	24	埼玉	ヤマハ YZF750	スーパービルドM・オザWR&D		
65	A	塚本 正章 MASAOKI TSUKAMOTO	25	熊本	ホンダ RVF/RC45	HONDA熊本レーシング		
66	B	中村 健一郎 KEN'ICHIRO NAKAMURA	28	茨城	ホンダ RVF/RC45	TEAM CBX		
70	B	中上 晋一 SHIN'ICHI NAKAUE	29	滋賀	ホンダ RVF/RC45	TEAMVITALSPIRIT		
71	A	北尾 公二 KŌJI KITAO	30	兵庫	ホンダ RVF/RC45	ライダーズクラブキタノ RT		
72	B	高嶋 靖生 YASUO TAKASHIMA	31	兵庫	カワサキ ZXR750R	BEET IGOL OIL		
74	A	鈴木 孝之 TAKAYUKI SUZUKI	30	栃木	ホンダRVF/RC45	TEAM CBX & PGR		
75	B	青柳 幸広 YUKIHIRO AOYANAGI	24	大阪	ヤマハ YZF750SP	SWIFT・R・MOTUL		
76	A	鈴木 誠 MAKOTO SUZUKI	32	静岡	ドゥカティ 916	TEAM・KATAYAMA		
77	A	谷口 仁 HITOSHI YAGUCHI	33	栃木	ヤマハ YZF750SP	コンパニオンフレンド&モト片柳		
81	B	青木 朋直 TOMONAO AOKI	22	山口	カワサキ ZXR750R	わたなべ技研		
83	A	仁賀 基文 MOTOFUMI NIGA	24	京都	カワサキ ZX-7RR	グリーンC京都スーパースポーツ		
90	B	安孫子 勝利 KATSUTOSHI ABIKO	36	北海道	ホンダ RVF/RC45	NISSEKI&チームにゃろめ		
93	A	元生 克久 KATSUHISA MOTOIKI	29	大阪	カワサキ ZXR750R	大西製作所チームミスターヒロ		
96	A	井筒 仁康 HITOYASU IZUTSU	25	千葉	ドゥカティ 916	チーム・ファンデーション		
831	B	神谷 登 NOBORU KAMIYA	27	神奈川	ホンダ RVF/RC45	レディオ湘南 & 桜井ホンダ		



# ENTRY LIST

## GP250

参加台数75台 決勝出走台数44台 決勝スタート 13:50 17周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
1	A	沼田 憲保 NORIYASU NUMATA	30	静岡	スズキ RGV-Γ250	ラッキーストライク・スズキ		
5	B	加藤 大治郎 DAJIRO KATO	20	埼玉	ホンダ NSR250	Team高武RSC		
6	A	芳賀 健輔 KENSUKE HAGA	23	愛知	ヤマハ TZ250	Y.R.T.		
7	B	森兼 正明 MASAOKI MORIKANE	28	埼玉	ホンダ RS250R	ENDURANCE		
9	B	喜久川 光 HIKARU KIKUGAWA	29	広島	ヤマハ TZ250	コンパイルレーシングヤマハ		
10	B	前田 誠司 SEIJI MAEDA	26	兵庫	ヤマハ TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
11	B	玉田 誠 MAKOTO TAMADA	19	愛媛	ホンダ RS250R	Team高武RSC		
12	B	小倉 直人 NAOTO OGURA	27	新潟	ヤマハ TZ250	IKKO RACING		
13	A	浜口 俊之 TOSHIYUKI HAMAGUCHI	26	愛知	ホンダ RS250R	TEAM NUTS! &コウサカ		
15	A	松戸 直樹 NAOKI MATSUO	23	千葉	ヤマハ TZ250	コンパイルレーシングヤマハ		
16	A	関口 太郎 TARO SEKIGUCHI	20	東京	ヤマハ TZ250	YESSレーシングチーム		
19	A	野田 弘樹 HIROKI NODA	26	奈良	ホンダ RS250R	HIRYU RACING		
20	A	原田 伸也 SHIN'YA HARADA	24	千葉	ヤマハ TZ250	SP忠男レーシングチーム		
21	B	高橋 司 TSUKASA TAKAHASHI	27	福島	ヤマハ TZ250	チームハイブリッジ		
22	A	山川 智之 TOMOYUKI YAMAKAWA	28	宮城	ホンダ RS250R	TOYO-TOWNS-RT		
24	B	秋吉 弘亮 KOSUKE AKIYOSHI	21	静岡	スズキ RGV-Γ250	JAJARACINGTEAM		
25	A	榊原 礼規 REIJI SAKAKIBARA	25	大阪	ヤマハ TZ250	チームモトスペースTODAYA		
26	A	田村 浩司 KOJI TAMURA	25	京都	ホンダ RS250R	テクニカル スポーツ		
27	B	仲地 万寿夫 MASUO NAKACHI	26	東京	ホンダ RS250R	モトバム レオスレーシング		
28	A	武山 祐介 YUSUKE TAKEYAMA	25	宮城	ヤマハ TZ250	日石+MIZTEC&森くま		
29	B	戸田 隆 TAKASHI TODA	33	東京	ホンダ RS250R	スーパービルドマキシマムRT		
32	B	及川 誠人 SEIJI OIKAWA	25	神奈川	ヤマハ TZ250	スポーツライダー&KISSR.T.		
33	B	中川 直史 NAOSHI NAKAGAWA	23	三重	ホンダ RS250R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム		
36	B	本間 利彦 TOSHIHIKO HONMA	29	愛知	ヤマハ TZ250	Y.R.T.		
37	A	内山 仲史 NAKAFUMI UCHIYAMA	25	千葉	ヤマハ TZ250	ガルクラフト コシカワ八千代		
38	B	水谷 茂 SHIGERU MIZUTANI	28	東京	ヤマハ TZ250	PLUSμ&M-PROJECT		
39	A	竹内 章徳 AKINORI TAKEUCHI	26	愛知	ヤマハ TZ250	ブレイメイトレーシング		
40	B	加藤 達也 TATSUYA KATO	23	愛知	ヤマハ TZ250	ブレイメイトレーシング		
41	B	加賀山 幸男 YUKIO KAGAYAMA	22	静岡	スズキ RGV-Γ250	JAJA.RACINGTEAM		
42	A	野村 昌広 MASAHIRO NOMURA	22	兵庫	ホンダ RS250R	シリウスレーシング.TWE		
43	B	福山 英済 HIDEAKI FUKUYAMA	28	大阪	ヤマハ TZ250			
44	A	甲府方 周二 SHUJI KOFUKATA	24	東京	ヤマハ TZ250	エキスパートレーシング		
47	A	宮田 剛志 KOJI MIYATA	28	三重	ヤマハ TZ250	ブレイメイトレーシング		
48	B	増澤 俊哉 TOSHIYA MASUZAWA	25	三重	ホンダ RS250R	レーシングチーム トクノ		
49	A	小西 良輝 YOSUITERU KONISHI	27	京都	AC26M	FCCテクニカルスポーツ		
50	A	中山 睦生 MUTSUO NAKAYAMA	24	滋賀	ホンダ RS250R			
51	A	匹田 禎智 SADANORI HIKITA	33	埼玉	アプリリア RSV	チームボスコ・モト&デイトナ		
52	B	林 祐孝 MASATAKA HAYASHI	26	愛知	ヤマハ TZ250	レーシングチームYSP刈谷		

●GP250の見どころ▷30~32ページ



No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
53	A	石川 智之 SATOSHI ISHIKAWA	30	静岡	ホンダ RS250R	ホンダ浜友会 浜松エスカルゴ		
54	B	村田 芳成 YOSHINARI MURATA	26	大阪	ヤマハ TZ250	VEGA SPORTS GK		
55	A	吉岡 直毅 NAOKI YOSHIOKA	26	静岡	ホンダ RS250R	ホンダ浜友会浜松エスカルゴ		
56	A	石井 孝之 TAKAYUKI ISHII	26	千葉	ヤマハ TZ250	M'-PROJECT!		
57	B	安斎 勝章 KATSUAKI ANSAI	25	福島	ヤマハ TZ250	チームハイブリッジ		
58	A	末続 仁厚 KIMIATSU SUETSUGU	26	神奈川	ホンダ RS250R	ペンタグラムwithAgip		
59	B	高津戸 義彦 YOSHIHIKO TAKATSUTO	24	北海道	ホンダ RS250R	チームトクノ		
60	A	伊 昌憲 MASANORI YUN	23	愛知	ホンダ RS250R	Team 花菱&KOHSAKA		
61	B	田中 大輔 DAISUKE TANAKA	27	愛知	ヤマハ TZ250	TEAM YDS YAMAHA		
62	B	池上 賢一 KEN'ICHI IKEGAMI	25	栃木	ホンダ RS250R	TEAM・i-FACTORY		
63	A	大西 明 AKIRA ONISHI	30	大阪	ヤマハ TZ250	大阪SAM・RT・カストロール		
64	B	川上 誠 MAKOTO KAWAKAMI	27	大阪	ヤマハ TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
65	B	薄井 誠 MAKOTO USUI	30	東京	ホンダ RS250R	レーシングチーム タクミ		
66	A	田中 恭文 YASUFUMI TANAKA	25	宮城	ホンダ RS250R	TOWNS-ファームためきざわ		
67	B	門田 祐二 YUJI KADOTA	26	三重	ヤマハ TZ250	BENEX&青山商事株		
68	A	時永 真 MAKOTO TOKINAGA	24	静岡	ヤマハ TZ250	TEAMモトスポーツ鈴覚IRF		
69	B	前田 剛 TSUYOSHI MAEDA	35	奈良	ヤマハ TZ250	クーベ レーシングプロジェクト		
71	A	長岡 俊宏 TOSHIHIRO NAGAOKA	25	兵庫	ヤマハ TZ250	HITMAN RC甲子園ヤマハ		
72	A	高橋 孝浩 TAKAHIRO TAKAHASHI	24	東京	ヤマハ TZ250	YSP東小金井&RS Let's		
74	B	小谷田 欽章 YOSHIKI KOYATA	25	東京	ホンダ RS250R	OXレーシングチーム&内外板金		
75	B	加藤 健治 KENJI KATŌ	23	東京	ホンダ WM03B	With me P・R・T		
76	A	五陸 泰彦 YASUHIKO GORIKU	29	静岡	ヤマハ TZ250	TEAMモトスポーツ鈴覚IRF		
77	B	吉田 健二 KENJI YOSHIDA	26	長野	ホンダ RS250R	TAKA & SBM		
78	A	青木 淳次 JUNJI AOKI	29	長野	ホンダ RS250R	スーパービルド マキシマムRT		
79	B	小島 剛 TSUYOSHI KOJIMA	27	神奈川	ヤマハ TZ250	ミクニ・クラブペンティスRP		
80	A	吉沢 隆 TAKASHI YOSHIZAWA	27	神奈川	ヤマハ TZ250	ペンタグラム&Agip		
82	B	千葉 勲 ISAO CHIBA	29	大阪	ヤマハ TZ250	チームフライングドルフィン		
83	A	浅井 一郎 ICHIRŌ ASAI	22	宮城	ヤマハ TZ250	Team ita		
84	A	山下 裕介 YUSUKE YAMASHITA	19	静岡	ヤマハ TZ250	☆BLACK PANTHER☆		
86	B	宮地 泰輔 TAISUKE MIYAJI	31	東京	ヤマハ TZ250	PALレーシング ミクニ		
90	B	福澤 巖 IWAO FUKUSAWA	28	東京	ホンダ RS250R	TEAM NUTS!		
91	A	末吉 真也 SHIN'YA SUEYOSHI	25	三重	ヤマハ TZ250	チーム モトスペース		
92	B	田村 則夫 NORIO TAMURA	30	神奈川	ヤマハ TZ250	ツツミモータース 2 F		
93	A	伊藤 喜通 YOSHIYASU ITŌ	32	愛知	ヤマハ TZ250	スーパーキャットRT		
95	B	松尾 清孝 KIYOTAKA MATSUO	27	愛知	ヤマハ TZ250	TEAM・P-BOX		
99	A	斉藤 憲治 KENJI SAITŌ	27	神奈川	ヤマハ TZ250	チームトシテック&ガレージPM		
100	A	秋山 恵利香 ERIKA AKIYAMA	24	静岡	ホンダ RS250R	Team IVY		



# ENTRY LIST

## GPI25

参加台数82台 決勝出走台数44台 決勝スタート 11:50 15周

No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
2	B	東 雅雄 MASAO AZUMA	25	高 知	ホンダ RS125R	チームフジワラBP		
3	A	茨木 繁 SHIGERU IBARAKI	27	兵 庫	ヤマハ TZ125	Y.R.T.		
4	A	高尾 和弘 KAZUHIRO TAKAO	28	愛 知	ホンダ RS125R	カストロールTEAMハルク・プロ		
6	A	小澤 敏明 TOSHIKI OZAWA	26	埼 玉	ホンダ RS125R	ENDURANCE&彩光		
7	B	小野 真央 MASAFUMI ONO	24	栃 木	ホンダ RS125R	カストロールTEAMハルクプロ		
8	A	上江洲 克次 KATSUJI UEZU	21	愛 知	ヤマハ TZ125	TEAM神興通産J Racing		
9	A	藤岡 祐三 YŪZŌ FUJIOKA	23	愛 媛	ホンダ RS125R	F.C.C.テクニカルスポーツ		
10	B	佐藤 慎也 SHIN'YA SATŌ	25	神奈川	ホンダ RS125R	ライダーズサロン 横浜		
11	A	金井 雅明 MASAOKI KANAI	27	茨 城	ホンダ RS125R	Fine Racing		
12	B	中野 真矢 SHIN'YA NAKANO	18	千 葉	ヤマハ TZ125	SP忠男レーシングチーム		
13	B	大塚 勇二 YŪJI ŌTSUKA	27	神奈川	ホンダ RS125R	TRR-PENSION☆OZ		
14	A	大崎 誠之 NOBUYUKI ŌSAKI	25	福 岡	ホンダ RS125R	テクノギルドレーシングチーム		
15	B	岡村 崇規 TAKANORI OKAMURA	25	三 重	ホンダ RS125R	チームフジワラBP		
16	A	久保 和寛 KAZUHIRO KUBO	25	京 都	ホンダ RS125R	Jhaレーシング		
22	A	天野 邦博 KUNIHITO AMANO	26	東 京	ホンダ RS125R	チーム アクタス		
23	A	渡部 伸 SHIN WATANABE	25	埼 玉	ホンダ RS125R	ホンダ ブルーヘルメットMSC		
26	B	山下 祐 YŪ YAMASHITA	28	神奈川	ホンダ RS125R	サムシステム、M'-PRO!		
27	A	上野 秀昭 HIDEAKI UENO	30	愛 知	ホンダ RS125R	チーム カツラガワ		
28	B	西山 康典 YASUNORI NISHIYAMA	23	宮 城	ホンダ RS125R	クルーズレーシングチーム		
29	A	秋田 貴志 TAKASHI AKITA	22	神奈川	ホンダ RS125R	ALICE & Calbee		
30	A	菊池 寛幸 HIROYUKI KIKUCHI	31	京 都	ホンダ RS125R	チームウイリー		
31	B	鶴飼 孝徳 TAKANORI UKAI	26	三 重	ホンダ RS125R	PENSION☆OZ-RGニワ		
32	B	稲毛田 潤 JUN INAGEDA	30	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky&Able com.		
34	B	永田 健二 KENJI NAGATA	26	三 重	ホンダ RS125R	TEAM カツラガワ		
35	A	中村 実 MINORU NAKAMURA	25	宮 城	ホンダ RS125R	TJC・Rサヤマ、ライドスポーツ		
36	A	酒井 大作 DAISAKU SAKAI	14	大 阪	ホンダ RS125R	Team-SRS・J		
38	B	水野 生久 IKUHISA MIZUNO	27	愛 知	ヤマハ TZ125	Support Racing		
40	B	永塚 良典 YOSHINORI NAGATSUKA	28	茨 城	ホンダ RS125R	TEAM・i-FACTORY		
41	B	松永 弘志 HIROSHI MATSUNAGA	22	千 葉	ホンダ RS125R	テクニカルスピード		
43	B	興梠 義則 YOSHINORI KOROGI	24	三 重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシングチーム		
44	B	伊東 哲 SATOCHI ITŌ	28	東 京	ホンダ RS125R	RACING SUPPLY		
45	A	楠原 浩二 KŌJI SAKAKIBARA	27	愛 知	ヤマハ TZ125	Support Racing☆		
46	B	坂西 博光 HIROMITSU SAKANISHI	26	三 重	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング		
48	B	小林 正義 MASAYOSHI KOBAYASHI	26	千 葉	ホンダ RS125R	TEAM AKAGI&Jha		
49	A	澤田 令 REI SAWADA	19	愛 知	ホンダ RS125R	TEAM-SRS・J		
50	A	松浦 光利 MITSUTOSHI MATSUURA	26	奈 良	ヤマハ TZ125	YSP津山レーシングチーム		
51	B	鈴木 健 KEN SUZUKI	25	埼 玉	ヤマハ TZ125	ガレージ サイトウ		
52	A	松井 剛 TSUYOSHI MATSUI	28	東 京	ホンダ RS125R	M-TUNE Racing		
53	B	阪口 賢一 KEN'ICHI SAKAGUCHI	30	大 阪	ホンダ RS125R	BadBoyRT.MAXIMA		
54	A	東 敬太 KEITA HIGASHI	31	東 京	ホンダ RS125R	Dinky&Able com.		
55	B	杉野 英史 HIDEFUMI SUGINO	26	三 重	ホンダ RS125R	爽風会 鈴鹿レーシング		

●GPI25の見どころ▷34~36ページ



No.	Gr.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	予選 順位	決勝 順位
56	A	大石 義次 YOSHITSUGU ÔISHI	25	東京	ヤマハ TZ125	EAST CORE		
57	B	加藤 誠一 SEIICHI KATÔ	24	宮城	ホンダ RS125R	TOYO&TOWNS RT		
58	A	依田 裕章 HIROAKI YODA	24	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky&Able com.		
59	B	道山 武史 TAKESHI MICHİYAMA	34	東京	ホンダ RS125R	SEIJOY BAY RACING		
60	A	安那 宏昌 HIROMASA YASUNA	25	広島	ホンダ RS125R	モトワークス福山		
61	B	浦尾 隆弘 TAKAHIRO URAO	23	東京	ホンダ RS125R	サンエイレーシング&フォルザ		
62	A	笹島 義久 YOSHIHISA SASAJIMA	28	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky&Able com.		
63	B	岡田 純一 JUN'ICHI OKADA	22	京都	ホンダ RS125R	Jhaレーシング		
64	A	細谷 陽一 YÔICHI HOSOYA	24	三重	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング		
65	B	岩田 吉正 YOSHIMASA IWATA	31	三重	ホンダ RS125R	Team BATTLE ☆		
66	B	亀田 勝太 MASATAKA KAMEDA	25	栃木	ホンダ RS125R	TEAM i-F&PSR		
67	A	野口 顕治 JUNJI NOGUCHI	22	福岡	ホンダ RS125R	Team 高式&RSC		
68	B	酒井 博志 HIROSHI SAKAI	16	大阪	ホンダ RS125R	Team-SRS・J		
69	A	及川 玲 AKIRA OIKAWA	28	神奈川	ヤマハ TZ125			
70	B	片平 光浩 MITSUHIRO KATAHIRA	33	千葉	ホンダ RS125R	RS勲斗雲と五十歩百歩にPIT		
71	A	岡田 栄治 EIJI OKADA	27	福岡	ヤマハ TZ125	RSS SHOWAカストロール		
72	B	林 達也 TATSUYA HAYASHI	24	東京	ホンダ RS125R	モトバムレオスレーシング		
73	A	大引 久二博 KUNIHIRO ÔBIKI	25	大阪	ホンダ RS125R	モトイネレーシング&御殿山二輪		
74	B	谷 信行 NOBUYUKI TANI	26	大阪	ヤマハ TZ125	HITMANRC甲子園ヤマハ		
75	A	近藤 嘉浩 YOSHIHIRO KONDÔ	26	京都	ホンダ RS125R	ALICE&calbee		
76	A	大橋 賢 KEN ÔHASHI	22	三重	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ		
77	B	小寺 淳二 JUNJI KODERA	23	岐阜	ヤマハ TZ125	TEAM神輿通産JRRacing		
78	A	岩村 龍司 RYÛJI IWAMURA	19	三重	ヤマハ TZ125	TEAM神輿通産JRRacing		
79	B	大石 吉孝 YOSHITAKA ÔISHI	25	三重	ホンダ RS125R	チーム トクノ		
80	A	吉沢 隆 TAKASHI YOSHIZAWA	27	神奈川	ホンダ RS125R	ペンタグラム&Agip		
81	B	寺林 拓実 TAKUMI TERABAYASHI	27	埼玉	ホンダ RS125R	カストロールTEAMVALKプロ		
82	A	橋本 靖雄 YASUO HASHIMOTO	24	山梨	ホンダ RS125R	横井エンジニアリング		
83	B	西沢 将弘 MASAHIRO NISHIZAWA	23	埼玉	ホンダ RS125R	ENDURANCE		
84	A	稲垣 誠 MAKOTO INAGAKI	21	三重	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツとアケノS		
85	B	中田 健二 KENJI NAKATA	29	奈良	ホンダ RS125R	BAD BOY RT		
88	A	武藤 しんじ SHINJI MUTÔ	31	愛知	ホンダ RS125R	Team KOHSAKA		
89	B	柳 昇一 SHÔICHI YANAGI	28	愛知	ホンダ RS125R	TEAM・P.BOX		
90	A	荒木 満 MITSURU ARAKI	30	神奈川	ホンダ RS125R	Dinky&Able com.		
91	B	阿部 高嗣 KÔJI ABE	26	愛媛	ホンダ RS125R	伯方島レーシング		
99	A	吉川 和宏 KAZUHIRO YOSHIKAWA	30	神奈川	ホンダ RS125R	ペンタグラム&Agip		
100	B	山田 実 MINORU YAMADA	30	千葉	ホンダ RS125R	Fine Racing		
102	A	濱井 則英 NORIHIDE HAMAI	24	京都	ホンダ RS125R	チームKan'S		
104	B	山中 信幸 NOBUYUKI YAMANAKA	28	愛知	ヤマハ TZ125	TEAM YDS YAMAHA		
105	A	中村 昇二郎 SHÔJIRÔ NAKAMURA	26	長野	ホンダ RS125R	TeamNHS伊那&りんちゃ		
107	B	星野 知也 TOMOYA HOSHINO	23	神奈川	ホンダ RS125R	テクニカルスポーツ関東		
109	A	仲城 英幸 HIDEYUKI NAKAJÔ	28	奈良	ホンダ RS125R	Jhaレーシング		



# ENTRY LIST

## SUPER NAKED

参加台数24台 決勝スタート16:25 東コース20周

No.	ライダー	年齢	所属県	マシン	チーム	タイヤ	予選 順位	決勝 順位
1	大西 敬紀	26	三重	ヤマハ XJR1200	OVER・de <sup>o</sup> LIGHT	BS		
2	大崎 隆一	28	千葉	スズキ GSF1200	ヨシムラスズキ=テリカリZZY	BS		
3	塩見 啓二	27	大阪	スズキ GSF1200	GARフィールドヨシムラスズキ	DL		
4	宮上 直之	28	大阪	スズキ GSF1200	コワースレーシングプロジェクト	DL		
5	藤原 幹也	31	大阪	ヤマハ XJR1200	R.T HAVATT	DL		
6	藤坂 浩二	29	大阪	カワサキ GPZ900R	チーム・ベンスケ	MI		
7	村長 克昭	34	大阪	スズキ GSF1200	VEGA SPORT&RT村長	DL		
8	古林 重敏	25	大阪	スズキ GSF1200	アドバンテージ&アイライン	BS		
9	水谷 勝	46	愛知	スズキ GSF1200	プロジェクト SURF	DL		
12	山岡 智嗣	30	滋賀	カワサキ GPZ900R	イエローコーン			
13	安達 龍藏	38	大阪	ヤマハ TRX850	TEAM ADACHI	MI		
18	小西 良輝	27	京都	ホンダ CB1000	Spec-Aヤマモトレーシング	DL		
28	大島 正	32	三重	スズキ GSF1200	VEGA SPORTS キダニ	DL		
38	山下 繁	26	兵庫	カワサキ ZRX	Team38 (チームサンパチ)	BS		
41	菅澤 裕貴	28	千葉	スズキ GSX400インパルス	TELLY&KALLY☆ZZY	BS		
42	伊藤 嘉英	26	三重	ホンダ CB400SF	RACING EIMU	DL		
43	高橋 ナオキ	28	三重	スズキ GSX400インパルス	MOTO・STEP・RT	BS		
44	有江 晋一	25	三重	スズキ GSX400S刀	MOTO・STEP・RT&BP	BS		
45	木下 富夫	28	大阪	スズキ GSX400インパルス	VEGA.S&メガネの木下	BS		
46	河原林 猛	23	滋賀	ホンダ CB400SF	VALAYGP&MOTUL	DL		
47	宇佐見 保弘	30	大阪	スズキ BANDIT		BS		
52	牧野 芳男	25	埼玉	ホンダ CB400SF	チームZZY+76&AXIS	BS		
56	大内田 実	30	三重	ホンダ CB400SF	P's サブライ	DL		
58	上村 芳範	22	大阪	ホンダ CB400SF	アートトラックMIKAWA!R	DL		

●SUPER NAKEDの見どころ▷ 38~39ページ

●タイヤ略称：BS=ブリヂストン、DL=ダンロップ、MI=ミシュラン



 **NAGATANIEN**

SINCE **1952**



伝統的  
フアーストフード



 味ひとすじ  
**永右園**



# GP250

START  
13:50  
17LAPS



開幕戦から着実に安定した成績を残してきたヤマハの芳賀。今年の250を面白くした立役者だ。今後もタイトル争いの行方を左右するキーパーソンには違いない。2勝のうち1勝は第4戦雨の鈴鹿でのもの。

## サバイバル ゲーム

スズキ沼田とホンダ加藤の一騎打ちになると思われた250クラスだが、いざ蓋を開けてみると、ヤマハの芳賀と本間の躍進により3大ファクトリーがひしめく、混沌とした状況となってきた。残りはあと4戦。もう一戦たりとも落とすことはできない……

### 予想外の大混戦

当初250は、昨年のチャンピオン、スズキファクトリー沼田憲保と、国内唯一のNSRを駆る加藤大治郎のマッチレースになると予想されていた。ところが現在ポイントランキングトップはヤマハの芳賀健輔=104ポイント(2勝)、2位沼田=101ポイント(1勝)、3位大治郎=99ポイント(3勝)、4位ヤマハの本間利彦=91ポイント(1勝)と大混戦となってしまった。この原因は、沼田がサスペンションやタイヤの問題から、優勝できたレースを2位や3位で終えたこと、大治郎が速さはあるが不安定だ



# GP250 MACHINES



## HONDA NSR250

正回転1軸クランクシャフト75度V型2気筒クランクケースリードバルブのNSRは、全日本では依然最強のパワーだ。96モデルは車体回りに大きな変更を受けて、コーナリングの安定性が増した。95モデルよりスイングアームは長くなり、リアショックもより前傾してマウントされている(市販RSは垂直に近い)。前後サスはショーワ、ブレーキはプレンプのカーボン。タイヤはミシュランだ。



## HONDA RS250R

75度Vツイン、通常とは異なる右チェーン、右の片持ちスイングアームなどNSR250と同様の構成を見せるRS250R。ボア・ストロークは54×54.5mm。市販状態ではラムエアは採用されていないが、ラムエア化しているマシンもある。なお、97モデルは無鉛ガソリン仕様となるのに伴い、パワーを補うためNSR同様にフロントゼッケン下にダクトを持つラムエアシステムを採用している。



## YAMAHA TZ250

芳賀と本間の乗るTZは、市販車をファクトリーでチューンしたもので、GPで原田の乗るYZRとは異なる。エンジンは正回転1軸クランクシャフト90度V型ケースリードバルブ、ボア・ストローク56×50.7mm。キャスター可変機構、削りだしのフロントフォークブラケット、オーリンズのリアショック(97TZは標準装備)、ニッシン6ピストンブレーキキャリアなどさすがの装備と速さを持つ。



## SUZUKI RGV-T250

今季から沼田以外にも常に2台、合計3台が出場するRGV-T。95モデルでボア・ストロークを500cc同様56×50.7mmから54×54.5mmに変更、逆回転1軸クランクシャフト70度V型2気筒ケースリードバルブは、70度の常識的な110度位相クランクではない位相角を採用し、振動低減よりも加速時のエンジン特性を優先させている。排気系は2系統の電子制御デバイスを持つ。前後サスはカヤバ。

## GP250クラス・ポイントランキング(トップ15)

順位	ゼッケン/ライダー	マシン	ポイント合計	第1戦 鈴鹿 3/17	第2戦 菅生 4/28	第3戦 筑波 5/19	第4戦 鈴鹿 6/9	第5戦 富士 6/23	第6戦 菅生 7/7	第7戦 美祿 8/11	第8戦 鈴鹿 9/8	第9戦 筑波 9/22	第10戦 T1 10/6	第11戦 菅生 11/3
1	6 芳賀 健輔	Y-TZ250	104	17	15	17	20	15	20	0				
2	1 沼田 憲保	S-RGV-T250	101	20	17	0	15	17	17	15				
3	5 加藤大治郎	H-NSR250	99	9	20	20	13	20	0	17				
4	36 本間 利彦	Y-TZ250	91	15	13	0	17	11	15	20				
5	15 松戸 直樹	Y-TZ250	62	11	5	11	6	9	13	7				
6	7 森兼 正明	H-RS250R	48	13	10	0	5	7	3	10				
7	12 小倉 直人	Y-TZ250	47	0	9	10	7	5	10	6				
8	18 亀谷 長純	S-RGV-T250	46	7	11	15	0	—	—	13				
9	13 浜口 俊之	H-RS250R	41	8	0	8	11	6	8	0				
10	24 秋吉 弘亮	S-RGV-T250	32	—	—	—	—	10	11	11				
11	19 野田 弘樹	H-RS250R	30	6	—	7	10	3	0	4				
12	16 関口 太郎	Y-TZ250	30	0	0	4	9	8	9	0				
13	41 加賀山幸男	S-RGV-T250	27	0	0	0	8	13	6	—				
14	11 玉田 誠	H-RS250R	27	10	8	—	—	—	—	9				
15	51 西田 禎智	A-RSV	25	0	0	13	4	—	0	8				

(公式得点) 1位+20点、2位+17点、3位+15点、4位+13点、以下5~15位+11~1点



## APRILIA RSV

デイトナが走らせるアプリリアRSV250(市販レーサー)は、ロータックスのタンデムツインの名残がある珍しい相互逆回転2軸クランクシャフト90度V型2気筒ロータリーデイスバルブだ。2個のデロルト製フラットバルブキャブはエンジン右に並び、デイトナではフロントブレーキキャリアをニッシン4ピストン、フロントフォークをオーリンズに変更するなど独自のチューンを行っている。



速さに安定感が加われば、やはり加藤が一步抜き出るのか?

ったことだ。

確かに大治郎の速さは抜群だ。今シーズンから使用しているミシュランタイヤの特性もあって、得意の独走優勝だけでなく、後半で逆転という追い上げパターンも出た。反面、250用ミシュランは、レインタイヤの性能が今ひとつ。あとは、ドライでもウェットでも状況によって我慢のレースができるかがチャンピオンへの大きな課題だ。

一方沼田は、どうも不満の残るレースが続いている。終盤までトップなのに逆転されるケースが多いのが気になる。その多くはタイヤやサスなどマシン側の問題ではあるけれど、ベテランだから、そこでキ

れてしまわないのはさすが。ただ、優勝したのは3月の開幕戦。フラストレーションを解消するためにも、チャンピオンを守るためにも、ここでは是非勝ちたい。

## 速さをみせるヤマハ芳賀

そしてヤマハ。250混戦を生み出した最大の原因だ。大治郎や沼田たちと違って、完全なファクトリーマシンではなく市販TZのファクトリーチューン。これが予想以上に速かった。それに加え、昨年まであまり目立たなかった芳賀兄弟の兄・健輔が、その才能を開花させたのだ。スーパーバイクに乗る弟の紀行が今年、ヤマハファクトリー入りして、第2戦菅生で初優勝すると、健輔も負けじと第4戦鈴鹿で初優勝。その後も第6戦で優勝。そして8耐では、慣れないスーパーバイクながらスペシャルステージでヤマハ勢過去最速の2分10秒716をマーク。春のマールボロGP頃から速さが際立ってきていたものの、ここまでやるのは…。残り4戦。今までと違ったプレッシャーの中で、その速さを見せられるか。チームの先輩本間は、全日本復帰後、第7戦美祿で初優勝を飾り完全復活。世界に通用

する速さを持っていた男だから、上位3人にとってはやっかいなベテランが戻ってきた感じだ。また、タイトル争い圏外ではあるが、今年からスズキファクトリーマシンに乗る秋吉弘亮と加賀山幸男も表彰台を狙う。なお、同チームの亀谷長純は3人中ふたりが出場というチーム体制のため欠場。

上位4人のファクトリーライダーによる混戦は、この鈴鹿からが本当の勝負。最終ラップのシケインまで、いやコントロールラインまで、数センチ単位の攻防が続く…。

前戦の美祿で優勝と上り調子のベテラン本間も要注目。





## 6 芳賀健輔 Kensuke HAGA

YAMAHA TZ250  
Y.R.T.



昨年ヤマハ入りし、今シーズンもワークスチームのTZを駆る。弟の紀行もスーパーバイクに参戦している。前戦の美祢以外はすべて表彰台獲得と安定した成績で、現在ポイントリーダーに立つ。

1973年6月1日生まれ(23歳) B型 愛知県出身  
92年国際A級昇格  
全日本GP250クラス・ランキング14位  
93年全日本GP250クラス・ランキング23位  
94年全日本GP250クラス・ランキング9位  
95年全日本GP250クラス・ランキング6位  
96年全日本GP250クラス参戦 (第1戦鈴鹿 2位/  
第2戦菅生 3位/第3戦筑波 2位/  
第4戦鈴鹿 優勝/第6戦菅生 優勝)

第7戦までのランキング1位 104ポイント

## 1 沼田憲保 Noriyasu NUMATA

SUZUKI RGV-Γ250  
ラッキーストライク・スズキ



ワークスRGV-Γを走らせ、昨年は見事チャンピオン獲得。第3戦以外は毎戦表彰台に上がり、2連覇へ向けて好位置につける。4月のマールポロGPでは2位に入り、世界へのポテンシャルをアピールした。

1966年4月26日生まれ(30歳) A型 茨城県出身  
91年国際A級昇格  
92年全日本GP250クラス・ランキング9位  
93年全日本GP250クラス・ランキング5位  
94年全日本GP250クラス・ランキング2位  
95年全日本GP250クラス・チャンピオン  
96年全日本GP250クラス参戦 (第1戦鈴鹿 優勝/  
第2戦菅生 2位/第4戦鈴鹿 3位/第5戦富士 2位  
第6戦菅生 2位/第7戦美祢 3位)

第7戦までのランキング2位 101ポイント

## 5 加藤大治郎 Daijirō KATŌ

HONDA NSR250  
Team高武RSC



NSRを走らせるのは、全日本では加藤ひとりだけ。今年のマールポロGPで世界選手権に初出場し、3位表彰台を獲得した。今年から履くミシュランタイヤのチョイスとセッティングがカギとなる。

1976年7月4日生まれ(20歳) 埼玉県出身  
93年九州選手権SP250/GP250/GP125クラス・チャンピオン  
94年国際A級昇格  
全日本GP250クラス・ランキング7位  
95年全日本GP250クラス・ランキング5位  
96年全日本GP250クラス参戦  
(第2戦菅生 優勝/第3戦筑波 優勝/第5戦富士 優勝/  
第7戦美祢 2位)

第7戦までのランキング3位 99ポイント

## 36 本間利彦 Toshihiko HONMA



1967年3月24日生まれ(29歳) B型 愛知県出身  
88年全日本GP250クラス・チャンピオン  
89年全日本GP250クラス・ランキング2位  
90年全日本GP250クラス・ランキング9位  
91年全日本GP500クラス・ランキング3位  
92年全日本GP500クラス・ランキング4位  
93年全日本GP250クラス・ランキング2位  
96年全日本GP250クラス参戦  
(第1戦鈴鹿 3位/第4戦鈴鹿 2位/  
第6戦菅生 3位/第7戦美祢 優勝)

第7戦までのランキング4位 91ポイント

## 7 森兼正明 Masaaki MORIKANE



1968年3月10日生まれ(28歳) A型 山口県出身  
91年国際A級昇格  
全日本1A250クラス・ランキング34位  
92年全日本GP250クラス・ランキング15位  
93年全日本GP250クラス・ランキング10位  
94年全日本GP250クラス・ランキング6位  
95年全日本GP250クラス・ランキング7位  
96年全日本GP250クラス参戦

第7戦までのランキング6位 48ポイント

## 15 松戸直樹 Naoki MATSUDO



1973年7月25日生まれ(23歳) A型 千葉県出身  
92年国際A級昇格  
93年全日本GP250クラス・ランキング17位  
94年全日本GP250クラス・ランキング10位  
95年全日本GP250クラス・ランキング15位  
96年全日本GP250クラス参戦

第7戦までのランキング5位 62ポイント

## 51 匹田禎智 Sadanori HIKITA



1962年11月25日生まれ(33歳) A型 長野県出身  
90年国際A級昇格  
全日本1A250クラス・ランキング16位  
92年全日本GP250クラス・ランキング6位  
93年全日本GP250クラス・ランキング4位  
94年全日本GP250クラス・ランキング5位  
95年世界GP250クラス・ランキング21位  
96年全日本GP250クラス参戦

第7戦までのランキング15位 25ポイント



# カーライフでもポールを狙え!



クルマ生活の名アドバイザー

## Best Car ベストカー

BI-WEEKLY

毎月10日・26日発売

ひとつのテーマがじっくり読める

### ベストカー V 即効版

絶賛発売中! ●定価(各)680円(税込)

いま「買い」の1台はズバリこれ!

### 極上絶版車に乗る!

ついに規制緩和!!最新対応版

### 絶対合格!! 改造車検



### レッドバッジシリーズ

クルマ選びから運転テクニックメンテナンスまで

好評発売中!

183 土屋圭市 必勝足回り秘伝 土屋圭市

185 カー用品をきれいにつける!RV編 青山元男

184 カー用品をきれいにつける!スポーティカー編 青山元男

●定価(各)1000円(税込)



# GP125 START 11:50 15LAPS



## 奪取!

全日本で活躍した多くのライダーが世界へと羽ばたきGPで目ざましい活躍をしているのは周知の事実  
過去6年のチャンピオンは全員GPへ参戦している  
つまり、タイトルの獲得は即世界へつながる  
世界を見据えた熾烈な戦いは、いよいよ佳境を迎える

### 好調、波にのる東

多くのライダーが、世界へと旅立っていった全日本GP125クラス。今年も世界選手権に負けないレベルの高い戦いが毎レ

ス、展開されている。

現在このクラスをコントロールしているのは、ゼッケン2東雅雄だ。昨年は最多勝ながらもノーポイントのレースが響き、ランキング2位に終わってしまった。その反

省から、今年は昨年の速さに加えて手堅い走り、ランキングトップを走っている。

昨年は東がマークした2分17秒158というコースレコードが象徴しているように、ずば抜けた速さが際立っていた。しかし今年には速さに加え、大混戦となった第3戦筑波や第6戦菅生、第7戦美祢のバトルを制するなど、安定した走りを見せている。長いシーズン、どうしてもとりこぼしが出てしまうが、それが第2戦という早い時期で出たことで東自身、改めて気を引き締めることができたようだ。チームフジワラチューンのRS125Rも、混戦で強力な武器とな

第3戦筑波での優勝を皮切りに、現在最多の3勝と安定した成績でランキングトップの東。今回も東を中心とした展開となるだろう。



小澤は少なくとも東より上位でゴールすることだ。



る高回転域での伸びが前半戦での課題とされていたが、それも第5戦あたりから改善され、「マシンの仕上がりはほぼ100%に近い。あとはライダーがマシンのポテンシャルをうまく引き出すだけ」とほぼ完成されている。乗りに乗っている東が、得意とするこ鈴鹿でどんなレースを見せてくれるか楽しみだ。

## 虎視眈々、小澤&高尾

第7戦で急浮上してきたのが、19才という若き次代を担うエース、中野真矢だ。開幕戦こそ2位表彰台を獲得したが、マシン造りで手間どり、本来の速さを見せること



まだ未勝利の佐藤。このあたりで1勝が欲しいところ。

なく下位グループに飲み込まれていた。しかしマシンの仕様をスタンダードに近い状態に戻すことでライディングのリズムを戻し、第7戦では最終ラップまで東と激しいバトルを展開。最終的には2位に終わったが、完全復活といってよい速さを披露した。TZ勢では中野だけが今季2回、表彰台に上がっている。やっと本来の速さを取り戻した中野は、目の離せない存在だ。

またランキング2位につける小澤敏明も恐れ存在だ。やや浮き沈みのあるレースを見せているものの、今季2勝を挙げており、その勝負強さは魅力的だ。

そして名門チームであるハルクプロの高尾和弘も今年念願の初優勝を挙げ、意気が揚がっている。速さでは定評のあるハルクチューンのRS125Rはトップクラスの速さで、どんな状況でも安定して速い。

GPから戻り、全日本を走る仲城英幸は、ライバルとの戦いの前にマシンとの戦いを強いられている。というのも昨年まで世界GPを戦ってきた仲城にとって、全日本で使



高尾は第4戦の鈴鹿で優勝を飾っている。

用されているアブガスでのデータがほとんどないため、マシン造りをしながら実戦を戦わなければならないのだ。それでも開幕戦優勝、第4戦2位と鈴鹿では必ず表彰台に上がっている。

チャンピオンの権利があるランキング上位陣は誰が獲得しても、全日本のタイトルは初となる。わずかな隙やミスで順位が大きく変動するGP125クラス。残り試合を考えると、ここでダッシュをかけられるかどうか、タイトルを大きく左右する。



TZ勢の急先鋒として期待の中野。

### GP125クラス・ポイントランキング(トップ15)

順位	ゼッケン/ライダー	マシン	ポイント合計	第1戦 鈴鹿 3/17	第2戦 菅生 4/28	第3戦 筑波 5/19	第4戦 鈴鹿 6/9	第5戦 富士 6/23	第6戦 菅生 7/7	第7戦 美祢 8/11	第8戦 鈴鹿 9/8	第9戦 筑波 9/22	第10戦 TT 10/6	第11戦 菅生 11/3
1	2 東 雅雄	H-RS125R	101	11	0	20	15	15	20	20				
2	6 小澤 敏明	H-RS125R	80	13	20	17	5	20	0	5				
3	10 佐藤 慎也	H-RS125R	71	15	—	13	13	11	13	6				
4	4 高尾 和弘	H-RS125R	65	9	17	2	20	0	17	0				
5	100 仲城 英幸	H-RS125R	62	20	0	10	17	13	—	2				
6	32 稲毛田 潤	H-RS125R	48	5	15	0	0	8	11	9				
7	14 大崎 誠之	H-RS125R	45	0	0	7	7	5	15	11				
8	12 中野 真矢	Y-TZ125	41	17	0	6	0	0	0	17				
9	38 水野 生久	Y-TZ125	33	7	8	1	4	0	—	13				
10	8 上江洲 克次	Y-TZ125	31	8	—	0	11	6	6	0				
11	30 菊池 寛幸	H-RS125R	26	0	0	0	6	10	10	0				
12	13 大塚 勇二	H-RS125R	25	4	3	—	10	0	8	0				
13	11 金井 雅明	H-RS125R	21	0	5	3	0	7	2	4				
14	49 澤田 令	H-RS125R	20	0	—	—	3	17	0	0				
15	106 中川 実	H-RS125R	19	0	4	15	—	0	0	—				

(公式得点) 1位→20点、2位→17点、3位→15点、4位→13点、以下5～15位→11～1点

## SRS-J受講生が GP125で大活躍

世界に通用する日本人ライダーの育成を目的に、92年に開校した鈴鹿サーキット・レーシング・スクール。その9歳～15歳までを対象とした、鈴鹿サーキット・レーシング・スクール・ジュニア(SRS-J)の受講生である、澤田 令(19)、酒井博志(16)、酒井大作(14)の3人が活躍を見せている。澤田は今年の第5戦富士で2位に入賞。今年から全日本に参戦した酒井大作は、第7戦の美祢で3位に入っている。また澤田は、「学業とレースを両立させ、光ある走りとその将来性」に対して、8月18日に東京中日スポーツより、第2回東中スカラシップの2輪部門を授与された。今後もSRS-Jライダーの活躍に要注目だ。



スカラシップを授与される澤田 令。贈呈者は辻本。

## GP125 MACHINES

### 主流のホンダRS対少数のヤマハTZ

#### HONDA RS125R



②東 雅雄(チーム フジワラBP)

95年に車体、エンジンともにプランニューとされたRS125R。昨年の世界チャンピオンマシンでもある。多くのコンストラクターの手により、さまざまなチューニングが施されており、地方選手権から世界グランプリまで、多くのユーザーに支持されている。96年型モデルの特徴は中速域の太いトルクで、コンストラクターはさらに高回転域のパワーを乗せ、強力なエンジンに仕上げている。

#### YAMAHA TZ125



⑫中野真矢(SP忠男レーシングチーム)

93年に先行開発で加藤義昌が全日本に参戦し、見事チャンピオンマシンに輝いたTZ125。94年から市販が開始され、96年型で3年目となった。96年型の特徴は、マシン開発を行いながら実戦参加している茨木繁の仕様だけに近づく、高い完成度を見せている点だ。これまでチューニングパーツの数ではRSに負けていたが、YEC(ヤマハ関連パーツメーカー)からパーツも供給され、パワーアップを果たしている。



## 2 東 雅雄 Masao AZUMA

HONDA RS125R  
チームフジワラBP



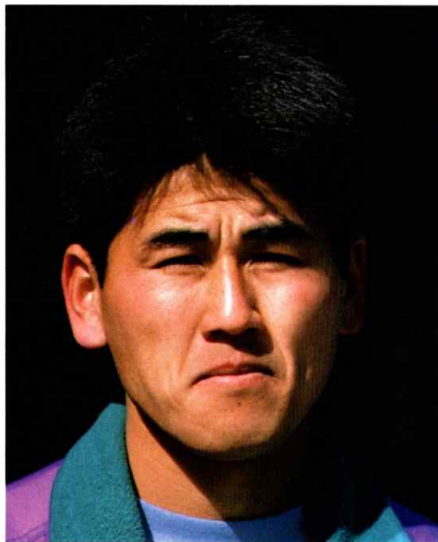
昨年は最多勝を挙げながら、ノーポイントのレースが3レースあり、これが大きく足を引っ張ってしまったためにランキング2位となってしまった。しかし今年は速さに安定性も増し、今季3勝を得ている。

1971年3月24日生まれ(25歳) B型 高知県出身  
94年国際A級昇格  
全日本GP125クラス・ランキング12位  
95年全日本GP125クラス・ランキング2位  
96年全日本GP125クラス参戦  
(第3戦筑波 優勝/第4戦鈴鹿 3位/  
第5戦富士 3位/第6戦菅生 優勝/  
第7戦美祿 優勝)

第7戦までのランキング1位 101ポイント

## 6 小澤敏明 Toshiaki OZAWA

HONDA RS125R  
ENDURANCE&彩光



92年に全日本に昇格後、2レース目で3位表彰台に上がる活躍を見せたが、その後ケガなどもあり、なかなか本来の速さを見せられずにいた。しかし今年の第2戦で初優勝を挙げ、さらに第5戦も勝った。

1970年3月21日生まれ(26歳) A型 埼玉県出身  
92年国際A級昇格  
全日本GP125クラス・ランキング14位  
93年全日本GP125クラス・ランキング22位  
94年全日本GP125クラス・ランキング29位  
95年全日本GP125クラス・ランキング6位  
96年全日本GP125クラス参戦  
(第2戦菅生 優勝/第3戦筑波 2位/  
第5戦富士 優勝)

第7戦までのランキング2位 80ポイント

## 10 佐藤慎也 Shin'ya SATO

HONDA RS125R  
ライダーズサロン 横浜



91年に全日本昇格後、同年にスポットで世界GPに参戦。94年から再び全日本を戦っている。今年は名門ライダーズサロン横浜に入り、第1戦で3位表彰台を獲得。初優勝が待たれている。

1971年1月16日生まれ(25歳) A型 神奈川県出身  
91年国際A級昇格  
全日本I A125クラス・ランキング41位  
92年全日本GP125クラス・ランキング11位  
93年全日本GP125クラス・ランキング24位  
94年全日本GP125クラス・ランキング18位  
95年全日本GP125クラス・ランキング10位  
96年全日本GP125クラス参戦  
(第1戦鈴鹿 3位)

第7戦までのランキング3位 71ポイント

## 4 高尾和弘 Kazuhiro TAKAO HONDA RS125R カストロールTEAMハルク・プロ



1968年5月19日生まれ(28歳) A型 愛知県出身  
93年国際A級昇格  
全日本GP125クラス・ランキング7位  
94年全日本GP125クラス・ランキング10位  
95年全日本GP125クラス・ランキング4位  
96年全日本GP125クラス参戦  
(第2戦菅生 2位/第4戦鈴鹿 優勝/  
第6戦菅生 2位)

第7戦までのランキング4位 65ポイント

## 12 中野真矢 Shin'ya NAKANO YAMAHA TZ125 SP忠男レーシングチーム



1977年10月10日生まれ(18歳) O型 千葉県出身  
94年鈴鹿NB-SP125クラス・チャンピオン  
鈴鹿4耐優勝(with 山内俊児)  
95年国際ライセンス昇格  
全日本GP125クラス・ランキング10位  
96年全日本GP125クラス参戦  
(第1戦鈴鹿 2位/第7戦美祿 2位)

第7戦までのランキング8位 41ポイント

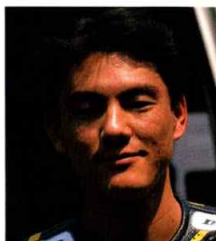
## 109 仲城英幸 Hideyuki NAKAJŌ HONDA RS125R Jha レーシング



1968年9月6日生まれ(28歳) O型 奈良県出身  
90年全日本NA125クラス・ランキング2位  
91年国際A級昇格  
全日本I A125クラス・ランキング2位  
92年全日本GP125クラス・ランキング3位  
93年全日本GP125クラス・ランキング2位  
94年世界GP125クラス・ランキング11位  
95年世界GP125クラス・ランキング9位  
96年全日本GP125クラス参戦  
(第1戦鈴鹿 優勝/第4戦鈴鹿 2位)

第7戦までのランキング5位 62ポイント

## 38 水野生久 Ikuhisa MIZUNO YAMAHA TZ125 Support Racing



1968年12月10日生まれ(27歳) B型 愛知県出身  
91年国際A級昇格  
全日本I A125クラス・ランキング38位  
92年全日本GP125クラス・ランキング7位  
93年全日本GP125クラス・ランキング11位  
94年全日本GP125クラス・ランキング19位  
95年全日本GP125クラス・ランキング37位  
96年全日本GP125クラス参戦

第7戦までのランキング9位 33ポイント



# CYCLE SOUNDS

SINCE  
1982



「観たい」「知りたい」「参加したい」  
サイクルサウンズは、あなたの「たい」に応えます。



サイ  
クル  
だ  
さ  
う  
ん  
ず  
!!

ミニバイクから世界GPまで、

ロードレース総合誌「サイクルサウンズ」は、  
全国書店にて毎月1日発売です。◎650円（税込）

since 1896  
100th  
創業100周年

山海堂

〒113 東京都文京区本郷5-5-18 TEL.03-3816-1617 FAX.03-3816-1619





# SUPER NAKED

START 16:25  
20LAPS(東コース)

ここまで行われた4レースすべてで、表彰台に登る安定した成績でランキングトップの大西。だがレースはまだ3戦ある。

## 荒馬と駿馬の ネイキッド対決

昔ながらのバイク然とした形のマシンによるスーパーネイキッド  
1リッタークラスのNK1と400ccのNK4が混走するレースだ  
パワーを誇る大排気量車と俊敏性に優れた中型車の対決やいかに…

750ccを越える4ストロークのビッグネイキッドマシンと400ccのネイキッドマシンがバトルを繰り広げるといふ、まったく新しいカテゴリーのレースがスーパーNKだ。昨年までは、ビッグネイキッドマシンだけで争われたNK1と、国際ライセンスライダーと国内ライセンスライダーによって争われたNK4-Iという別々のクラスだったが、今年から合併し、このクラスが生まれた。

しかし、ただの混走レースとしただけで

は、圧倒的なストレートスピードを誇るNK1にNK4が勝つことは難しい。そのため、軽量でコーナリングスピードの高いNK4の利点を生かすために、テクニカルでストレートも短い東コースを使用して、タイムが接近するように設定されている。

これらのほかに、ローリングスタートの採用や、トラブルがあったときにはベースカーがコースに入るなど、これまでにはなかった新しいシステムを採り入れている。

また、レースのシステムだけではなく、参加ライダーにも特徴が見られる。往年の名ライダーや、全日本を戦う現役のライダーが多数参加しており、見どころのひとつとなっているのだ。それらの中には82年、全日本500ccクラスチャンピオンの水谷勝や、全日本TT F1クラスで活躍した大島正、今回は出場していないが、88年の全日本TT F1クラスチャンピオンの宮崎祥司らが参加、小西良輝や大西敬紀らの全日本組とバトルを繰り広げ、レースに彩りを加

えている。全日本は退いたものの、ベテランライダーの完成された走りを目の当たりにすることができるのも、このクラスならではのといえる。

そのスーパーNKも、今年は、真夏の8耐ウィークに開催された2時間耐久レースを含め、3戦がすでに消化された。

現在のランキングトップは、第1戦が3位、続く第2戦(2ヒート)は3位/2位、そして2時間耐久の第3戦で優勝を果たした、OVER・de "LIGHTのXJR1200を駆る大西敬紀。ランキング2位には第1戦が2位、第2戦が1位/1位、第3戦は惜しくもリタイアとなった、Spec-AヤマモトレーシングのCB1000SFを駆る小西良輝。ランキング3位には第1戦と第2戦両ヒートともに4位、第3戦で3位と、見事表彰台を獲得したVEGA SPORTS キダニのGSF1200、大島正が入る。今回も、この3台によるトップ争いが繰り広げられるのは確実と見て良いだろう。ポイント差もランキングトップと2位が10ポイント差、2位と3位が3ポイント差と接近しており、まだ混沌としている。また、今回は、NK4クラスのマシンで、CB400SF以外にもGSX400インバルスやZRXなどが多数エントリー。これらの車種が、どこまでNK1を相手に戦えるか楽しみだ。

まさに、異種格闘技的な要素をもっているスーパーNK。ほかのクラスでは味わうことのできない過激なバトルとダイナミックな走りをぜひとも楽しんで欲しい。



ただひとり2勝を挙げている小西は、ランキング2位につける。



## SUPER NAKED SUZUKA ポイントランキング(トップ15)

順位	セッケン/クラス/ライダー		マシン	ポイント 合計	第1戦 3/17	第2戦 4/21	第3戦 7/21	第4戦 9/8	第5戦 10/27	第6戦 12/8
1	1	NK1	大西 敬紀	Y-XJR1200	67	15	15	17	20	
2	18	NK1	小西 良輝	H-CB1000SF	57	17	20	20	0	
3	28	NK1	大島 正	S-GSF1200	54	13	13	13	15	
4	9	NK1	宮崎 祥司	K-GPZ1100	52	20	17	15	0	
5	3	NK1	塩見 啓二	S-GSF1200	44	10	8	9	17	
6	4	NK1	宮上 直之	S-GSF1200	33	4	9	7	13	
7	82	NK4	梨本 圭	H-CB400SF	32	11	11	10	0	
7	2	NK1	大崎 隆一	S-GSF1200	32	0	10	11	11	
9	1	NK1	箕田 貴司	Y-XJR1200	20	-	-	-	20	
10	3	NK1	小林 裕樹	S-GSF1200	17	-	-	-	17	
11	51	NK4	辻本 貴志	S-GSX400インパルス	16	8	0	8	0	
12	28	NK1	木谷 勝	S-GSF1200	15	-	-	-	15	
13	63	NK4	前田 淳	H-CB400SF	15	9	6	0	0	
14	6	NK1	藤坂 浩二	K-GPZ900R	15	3	7	5	0	
15	4	NK1	水谷 勝	S-GSF1200	13	-	-	-	13	

(公式得点) 1位→20点、2位→17点、3位→15点、4位→13点、5～15位→11～1点



## SUPER NAKED NK1 & NK4 MACHINES

スーパーNKの参加車両は、スチール製パイプフレームを使用した総排気量750cc以上の4ストロークマシンのNK1と、レーサーレプリカ以外の400ccのネイキッドマシンのNK4の2パターンのマシンがエントリーすることができる。さらにこれらの中でも、鈴鹿コンストラクターズコミティが定めた公認車両のみが、エントリーすることを許されている。

これらの中で、現在ランキングトップをいくのがオーバーレーシングのXJR1200だ。マシンの仕上がりはほぼ熟成の域に達しており、トータルバランスの高さが武器となっている。それを追うヤマモトレーシングのCB1000SFは、昨年フルコースで開催されていたNK1では排気量のハンディからいまひとつ優勝争いに加わることができなかったが、今年、東コースで開催されるようになってから、その実力をフルに発揮、今回もトップ争いに加わる

ことは確実とみていだろう。また、NK1の中で最多数のエントリーを占めるGSF1200はベース車両の持つポテンシャルの高さから人気を集めており、ここ数戦で確実に戦闘力を上げてきているだけに、怖い存在だ。ほかには、キャブレターの規制を受けていないため、ストレートスピード最速を誇るGPZ900Rの存在も見逃せない。

これらNK1マシンを迎え撃つNK4マシンにはCB400SFを中心として、GSX400 IMPULSE、GSX400S刀、ZRXなど、色とりどりの車種がエントリー。より一層、バトルに楽しみを加えている。NK4マシンは、今のところNK1のトップ数台には差をつけられているが、セカンドグループにおいては、白熱したレースを展開しており、今回もどこまでNK1に食い込むかが非常に楽しみなところだ。



HONDA CB1000SF



SUZUKI GSF1200



KAWASAKI GPZ900R



YAMAHA XJR1200



HONDA CB400SF



SUZUKI GSX400 IMPULSE



KAWASAKI ZRX

### 出場できる公認車両および車両規定

	公認車両	最低重量	エア・リストラクター径
NK1	ホンダ CB1000SUPER FOUR	185kg	30
	ヤマハ XJR1200	180kg	30
	TRX850	165kg	-
	カワサキ GPZ1100	185kg	29
	GPZ900R	180kg	-
	ZEPHYR1100	180kg	36
	スズキ GSX1100刀	180kg	30
NK4	GSF1200	185kg	29
	トライアンフ トライデント900	180kg	-
	ホンダ CB400SUPER FOUR		
	CB-1		
	ヤマハ XJR400		
	DIVERSION		
	カワサキ ZEPHYR		
ZRX			
スズキ GSX400 S刀			
BANDIT			
GSX400 IMPULSE			

スーパーNKでのNK4車両は  
①最低重量は定めず  
②キャブレターを変更する場合のエア・リストラクター取付けは義務づけられない。

### 速いマシン売ります! 買います? 早い者勝ち、マシンの買い取り規定

スーパーネイキッドにはなんとマシンの売買という面白い規定がある。これは、1大会で6位以内に入賞したマシンは、購入希望者がいればそのマシンを販売しなければならないというもの。ちなみに売買の金額もNK1は240万円、NK4は120万円以内(税金は含まない)と定められている。ただし、購入は該当するマシンが車両保管されている時間内に限られているため、買

う方は即決という感じだ。

この規定はマシン製作費の高騰を抑えるために考えだされた規則だ。つまり、速いマシンを造るために、お金をつぎ込むこともできる。しかし、この規定があるため、希望があれば売らなくてはならないから、際限なくマシンにお金をつぎ込むわけにもいなくなる。それで結果的に費用の高騰を抑えられるというわけだ。



# 秋の鈴鹿で 世界のバトルを体感する。 日本初上陸レースも 続々登場!

華麗なるトップ・フォーミュラから  
ド迫力のツーリングカーまで  
豪華なラインナップがキミを圧倒!  
鈴鹿を超高速の夢が駆けめぐる

## FIA F1世界選手権シリーズ最終戦 フジテレビ日本グランプリレース

●同日開催レース/F4、シビック

10/11  
~13

### “地上最速”の称号をかけた 戦士のドラマ

モータースポーツの最高峰・F1。最終戦となる今年の見どころはやはりヒル、ビルヌーブ、そしてシューマッハーの戦いぶりだ。悲願のチャンピオンに向かって勝利を重ねているウィリアムズのヒル。一方、名門フェラーリに移籍した94、95年のチャンピオン、シューマッハーはマシンに泣かされているが、走りへの評価はますます高まっている。そして何より注目は驚異の新人ジャック・ビルヌーブだ。全日本F3を戦ったのちアメリカに渡りインディ・チャンピオンを獲得。今年ウィリアムズに抜擢され、デビュー4戦目にして初優勝。タイトル争いでもヒルの強力なライバルとなっており、どのような走りを見せるか楽しみ。さらに日本GPには日本人ドライバーのスポット参戦も予想され、期待大だ。10回目の大会を記念するイベントも盛りだくさん!数々のドラマの舞台となってきた鈴鹿サーキットで今、新たな時代のスタートが切られる。音速バトルの証人となるのはキミだ。



10回目のF1。今年のドラマの主役は誰だろう。



右京が地元グランプリで神風を呼ぶ。



チャンピオン街道をばく進中のデーモン・ヒル。



最強マシン、ウィリアムズFW18で同僚ヒルを追うジャック・ビルヌーブ。92年の全日本F3以来となる鈴鹿、その成長ぶりをぜひ見せてほしい。



注目度No.1のビルヌーブ。すでに風格さえ漂う25才の青年だ。



昨年のウイナー、ミハエル・シューマッハー。

チケットぴあ、チケットセゾン、ローソンチケット他で発売中のF1チケットがさらにお求めやすくなりました

お電話1本でお手元まですぐにチケットが届く  
**F1チケット電話販売開始**

受付期間 9月15日(日)~10月4日(金)各日とも9:00~20:00

**Tel 052-290-2200**

●お申し込み後2~3日でお手元までチケットが届きます。

ご精算方法は2通り

クレジットカード(チケット代金+送料600円)又は、代金引き替え  
コレット便(チケット代金+送料1,000円)

フジテレビ日本グランプリレース前売り観戦券				
券種(税込)	有効観戦日	大人	高校生	小・中学生
3日間通し券	10/11(金)~13(日)	16,000円	8,000円	5,000円
金曜日フリー走行観戦券	10/11(金)	7,000円	3,500円	—

※3歳~小学校入学前のお子様は遊園地入園料800円で自由席に入場できます。

●ゆったり観戦できる指定席券も好評発売中!



FIA国際ツーリングカー選手権最終戦

# ITC SUZUKA 1996

11/7  
~10

## 大人気のクラス1ツーリング ついに日本上陸!

最強のツーリングカー選手権として君臨するITC (INTERNATIONAL TOURING CAR CHAMPIONSHIP)がついに日本上陸! 極限まで改造を施されたメルセデス・ベンツ、オペル、アルファ・ロメオが繰り広げるバトルが大人気の選手権だ。マシンは市販車がベースだが、実体はツーリングカーの概念を越えた怪物マシン。エンジンは2.5ℓ・V6で実に500馬力を発生する。そしてITCマシンの特徴といえるのがハイテク満載のシャシー。トラクションコントロールやABSなど、新技術が惜しみなく投入されている。それでいて各車の力が拮抗し、ドライバーの腕で勝負できるところがITCのITCたるゆえんなのだ。ドライバーも充実、F1経験者が半数近く上ることからもレベルの高さがわかるはず。初めて日本のファンの前に姿を現すITCはすべてのレースファン必見の一戦だ!



ひたすら全開! 闘争本能むきだしでの戦いがITCの大きな魅力だ。



1イベントで2レースが楽しめる。

チケットぴあ、チケットセゾン、ローソンチケット他で好評発売中!

券種(税込)	有効観戦日	大人	中・高校生
4日間通し券	11/7(木)~10(日)	9,000円	4,500円

●木・金・土曜の観戦は遊園地入園料のみで自由席に入場できます。  
●3歳~小学生のお子様は遊園地入園料800円で自由席に入場できます。

●ゆったり観戦できる指定席券も好評発売中!

F1開催日(10/11~13)限定で、ご来場者へ観戦券のみ約3割引で販売!  
大人9,000円→6,000円  
中・高校生4,500円→3,000円

# NASCAR SUZUKA THUNDER SPECIAL 100

(東コース)

11/22  
~24

## 豪快さがウリのアメリカンレース!

モンスターマシンによる激烈バトルが大人気のナスカーレースも、日本での初開催を迎える。ナスカーはアメリカを代表するビッグ・レース。マシンは堅牢なパイプフレーム構造のボディに5.7ℓ・V8、700馬力を誇るエンジンを搭載。これぞアメリカンというカラフルなボディに、インディカーなみのエンジンを積む恐るべきモンスターなのだ。そして今回のTHUNDER SPECIAL 100にはデイル・アーンハートを始め、トップドライバー30名が大挙来日。オールスター戦さながらの豪華な顔触れとなる。また、ピットストップを含む1台ずつの予選タイムアタックや、第1セグメント(第1ヒート)で速かった車を第2セグメント(第2ヒート)では後方からスタートさせる。インバート方式など、本場アメリカでもオールスター戦でしか見られないレース方式を採用する。コースもオーバルに近い雰囲気を持つ東コースを使用。"魅せるレース"ナスカーならではのレースが楽しめる。超ド級マシンのバトルに、大コーン間違いなしだ!



王者・アーンハート。



ボディが大きいためドラフティング(スリップストリーム)合戦は熾烈をきわめる。



スピーディなピットワークも見ものだ。

チケットぴあ、チケットセゾン、ローソンチケット他で好評発売中!

券種(税込)	有効観戦日	大人	中・高校生
3日間通し券	11/22(金)~24(日)	7,000円	3,500円

●3歳~小学生のお子様は遊園地入園料800円で自由席に入場できます。

●ゆったり観戦できる指定席券も好評発売中!

## 各レースチケットのお求めは...

チケットぴあ、チケットセゾン、ローソンチケット  
鈴鹿サーキットチケットセンター他で発売中!

鈴鹿サーキットチケットセンターでは、レースの詳細が分かるチラシやポケットカレンダーをご用意しております。お気軽にお立ち寄りください。

鈴鹿サーキットチケットセンター ☎0593-78-1111(代)

ITC SUZUKA 1996および  
NASCAR SUZUKA THUNDER SPECIAL 100  
のチケットは電話がFAXでもご購入いただけます。

手軽に買えるIIチケットのご購入方法は2通り

### ご購入方法その1~クレジットカード・コレクト便~

お申し込み後2~3日で宅急便にてチケットをお届けします。(別途、下記の送料が必要です)

発売期間: ITC 1996年11月2日まで発売・NASCAR 1996年11月16日まで発売

■電話で申し込み: 0593-70-4386 ■FAXで申し込み: 0593-70-4382

※受付時間/10:00~17:00 ※受付時間/24時間(発売期間中)

(ご精算は次の2通りとなります)①クレジットカード引き落とし(チケット代金+送料600円)

②代金引き換えコレクト便(チケット代金+送料1,000円)

★FAXでのお申し込みの方は、鈴鹿サーキットFAXサービス/0592-23-7777で、申込用紙を出力し、用紙にご記入の上お申し込みください。

### ご購入方法その2~オンラインチケットなどの窓口販売~

発売期間: ITC 1996年11月9日まで発売・NASCAR 1996年11月23日まで発売

- チケットセゾン ●チケットぴあ ●丸井チケットぴあ ●関西プレイガイド協会
- ミリオンチケットセンター(ミリオンカード会員専用)
- 名古屋 ☎052-243-6507 ●大阪 ☎06-231-2370 ●東京 ☎03-3265-7194
- ローソンチケット、ダイエー (OMC店)
- ファミリーマート (電話予約はチケットセゾン) ●CNプレイガイド
- JR東海旅行センター、JR東海ツアーズ (NASCARのみ) ●am/pm、MINI STOP
- ★全国主要プレイガイド★旅行代理店 (JTB、近畿日本ツーリスト、東急観光、日本旅行、名鉄観光)
- 鈴鹿サーキット各営業所 (東京・名古屋・大阪・三重) ●ホンダウエルカムプラザ青山
- 鈴鹿サーキットチケットセンター
- ※★印は観戦券のみのお取り扱いとなります。

## 全日本選手権 フォーミュラ・ニッポン 第9戦 鈴鹿サーキット

●同日開催レース/F3、ジビック、ミラージュ

9/28  
~29

### F1にもっとも近い日本独自のフォーミュラカーレース

数多くのF1ドライバーを生んだ全日本F3000から移行したフォーミュラ・ニッポン。今年もラルフ・シューマッハーや高木虎之介の活躍など話題がいっぱいだ。シリーズ終盤を迎え、タイトル獲得をかけた熾烈なバトルが繰り広げられる!



## スーパーN1耐久シリーズ第6戦 SUZUKA SUPER N1-500km

●同日開催レース/ミラージュ

9/14  
~15

### ほぼノーマルマシンによる過酷な耐久バトル

もっとも市販車に近いレーシングマシン。改造範囲が狭いだけに各チームの実力は伯仲、耐久ながら終盤まで結末が予測できないドラマ性が見どころだ。参加車種も多彩だが、GT-R神話が今も続くシリーズとしても高い人気を集めている。





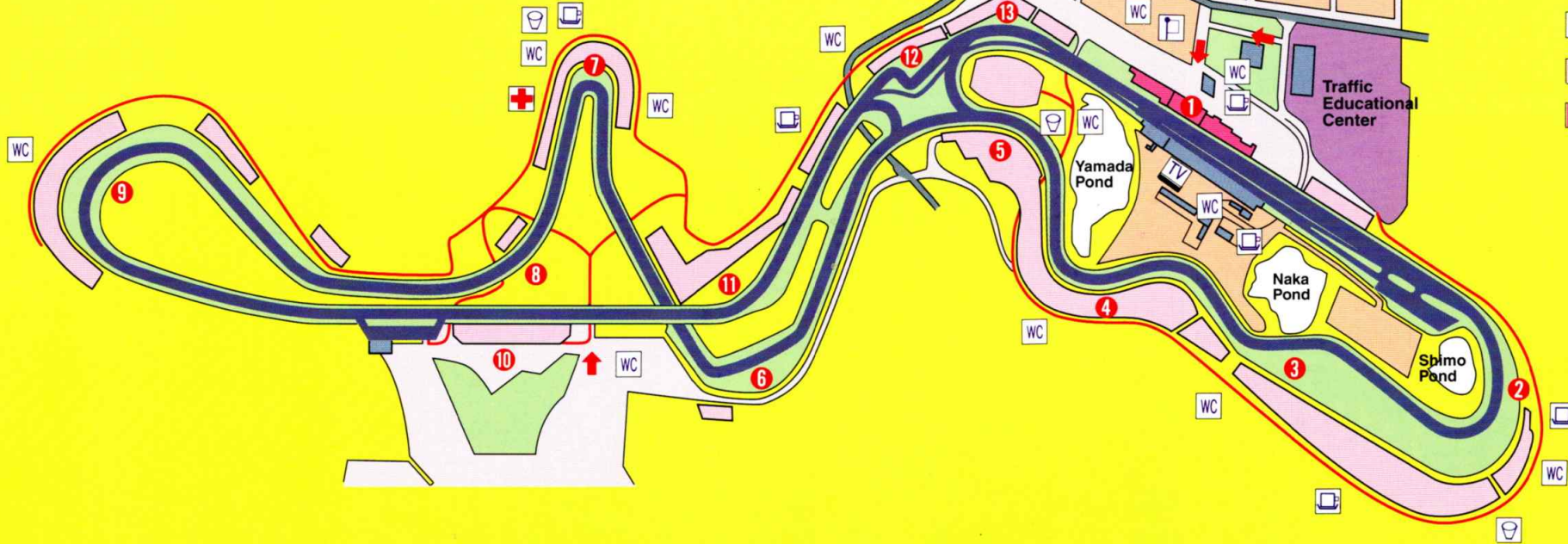


# SUZUKA CIRCUIT

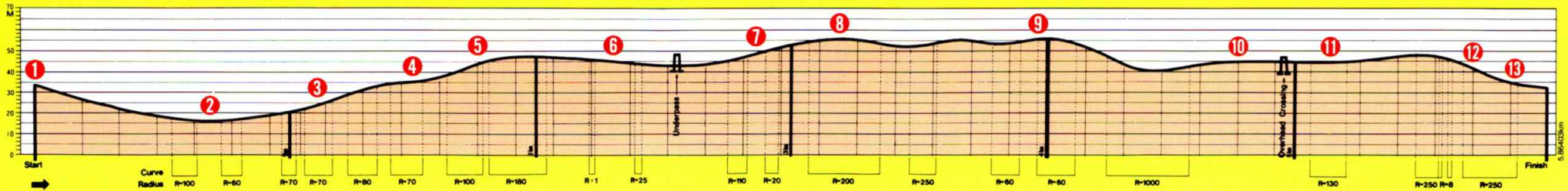
## INTERNATIONAL RACING COURSE COURSE GUIDE

### 鈴鹿サーキット・国際レーシングコース/データ

完成 : 1962年 9月  
 コース長 : 5.86403km (東コース : 2.24363km)  
 コース幅 : 10m~12m  
 コーナー数 : 20  
 メインストレート : 800m  
 バックストレッチ : 1200m



### ELEVATION





# 観戦ポイント

番号はコース図と高低差を表すエレベーションに記してある観戦ポイントの説明です。

## ① グランドスタンド

Grandstand

レースの流れが一番分かりやすいのがグランドスタンド。スタートやゴールはもちろん、大型のカラーモニター、サーキットビジョンや順位を表示するリーダーボードがあり、レースの展開がわかりやすい。目の前で行われるピット作業の他、ストレートでの抜き合いも楽しめる。

## ② 1～2 コーナー

1st & 2nd Corner

第1コーナーは鈴鹿サーキット一番の追い抜きポイント。下りのストレートから、スリップストリームを使って第1コーナーへの飛び込みで追い越していく。そのギリギリまで遅らせるブレーキング競争が勝負のポイントになる。また、スタート直後のトップ争いは大迫力だ。

## ③ S字コーナー

S Curve

その名の通りS字の形をしたコーナー。左、右、左と連続するテクニカルなコーナーのため、リズムカルなマシンの挙動が楽しめる。ここをうまく走れるかどうかでタイムに大きく影響するため、ライダーのテクニックとマシンのセッティングを見るにはもってこいの場所。

## ④ 逆バンク

Anti-Banked Curve

サーキットのコーナーには、普通すり鉢状のカントと呼ばれる傾斜がついている。だが、ここはその傾斜がほとんどついていないため、ライダーからは逆に傾斜しているように見えるのでこの名がある。ライダーにとってはシビアなコーナーリングが要求される。

## ⑤ ダンロップコーナー

Dunlop Corner

コースの中で最も上り勾配のきつい地点。その上高速コーナーのため、ライダーにはかなりの横Gがかかるハードなコーナー。マシンが小刻みにドリフトする様子が見えるかもしれない。マシンが駆け上っていく様子は迫力がある。

## ⑥ デグナーカーブ

Degner Curve

64年、このコーナーでE. デグナーというGPライダーが転倒したことからこの名がつけられた。ふたつのコーナーからなる複合コーナーで、加速してきたマシンが減速し、S字と同じようにうまくリズムカルにクリアできるかがポイントとなる。

## ⑦ ヘアピンカーブ

Hairpin Curve

名前はもちろん形がヘアピンに似ていることから。デグナーカーブを抜けた後、加速したマシンが一気に減速するタイトなコーナーで、ここを回るとまたマシンは加速していく。減速、コーナーリング、立ち上がりでマシンの挙動をじっくり楽しめる。

## ⑧ 200R

ヘアピンを抜けたマシンが徐々に加速していくならかなハイスピードコーナー。もちろんライダーはアクセル全開だ。ヘアピンで1速に落ちたマシンが次のスプーンカーブに向けてシフトアップしていく様子がよく分かる。

## ⑨ スプーンカーブ

Spoon Curve

名前の由来はやはりその形状がスプーンに似ているところから。ここも大きく分けてふたつのコーナーからなるテクニカルなコーナー。ひとつ目ではかなり高いスピードで入るが、ふたつ目は車速が落ちる。ここを速く脱出することが次のバックストレッチでの伸びにつながる。

## ⑩ 西ストレート

Back Stretch

バックストレッチと呼ばれる西ストレートは鈴鹿サーキットで最もスピードの速い地点。グランドスタンド前のメインストレートと並んでマシンのパワー差やスリップストリームを使った攻防が見られる。

## ⑪ 130R

最高速の出る西ストレートからわずかに減速して飛び込む、ライダーにとっても、見る側にとっても迫力十分の高速コーナー。マシンコントロールの様子も見る事ができる。また130R手前がマシンの追い越しポイントにもなっている。

## ⑫ カシオトライアングル

CASIO Triangle

いわゆるシケインと呼ばれるのがここ。130Rからは下りのラインとなる。高速コーナー130Rを抜けてのブレーキング競争による追い越しポイントのひとつであり、通過速度は全コースを通じて最も低い。撮影にもおすすめのポイント。

## ⑬ 最終コーナー

Last Corner

下りの長いコーナーで、ストレートや第1コーナーでの追い越しのために重要なポイント。ここでの立ち上がりがよくないとメインストレートでの加速に影響し、ひいてはラップタイムにも大きく影響してくる。

## コースレコード

CLASS	TIME	RIDER	MACHINE	DATE	RACE
スーパーバイク	2'10"278	藤原 克昭	KAWASAKI ZXR750	95.11.11	鈴鹿スーパーバイク100miles
GP250	2'10"655	加藤大治郎	HONDA NSR250R	95. 6.10	鈴鹿スーパーバイク200km
GP125	2'17"158	東 雅雄	HONDA RS125R	95. 9.10	鈴鹿スーパーバイク2ヒートレース
東コース					
NK1	0'54"633	宮崎 祥司	KAWASAKI GPZ1100	96. 4.20	鈴鹿選手権スーパーNKシリーズ第2戦 '96 SUPER NAKED SUZUKA
NK4-1	0'56"282	梨本 圭	HONDA CB400SF	96. 4.21	鈴鹿選手権スーパーNKシリーズ第2戦 '96 SUPER NAKED SUZUKA

① The color monitor, a circuit vision, and a leader board allow those in the Grandstand to easily follow the unfolding of the race. ② The First and Second Corners are typical passing points at Suzuka Circuit. Riders display their techniques of braking into and accelerating out of the corners. ③ The S-curve provides riders with a left-right-left series of curve. ④ This corner has practically no cant. To riders, it looks as if the surface cants the other way. A precise cornering technique is essential. ⑤ At the Dunlop corner, riders experience strong lateral G forces, and their machines may undergo drifting. ⑥ The two-curved Degner Curve requires a rhythmical handling technique from the riders. ⑦ At the Hairpin Curve one can enjoy the entire behavior of the machine from the entering of the corner to the accelerated leaving of it. ⑧ At 200R, a gentle high speed curve, riders accelerate their engines all the way by shifting up and opening up to full throttle. ⑨ A rapid escape from the second curve of the two-curved Spoon Curve may be the key to success at the following back-stretch. ⑩ The backstretch is the place for a rider to mark his fastest speed. ⑪ The 130R is a typical fast-speed corner. It is also one of the passing points at Suzuka. ⑫ The Casio Triangle is also a typical passing point. ⑬ The last corner, inclined downward, signifies a long and important passing point before heading into the straight and first corner. If taken poorly, it will hamper acceleration on the main straight and lap times. An ideal place to compare acceleration performance.

## 鈴鹿サーキット ラップタイム&平均速度

Time	Speed(km/h)
2分00秒	175.920
2' 01"	174.467
2' 02"	173.036
2' 03"	171.630
2' 04"	170.246
2' 05"	168.884
2' 06"	167.543
2' 07"	166.224
2' 08"	164.925
2' 09"	163.647
2' 10"	162.388
2' 11"	161.148
2' 12"	159.928
2' 13"	158.725
2' 14"	157.541
2' 15"	156.374
2' 16"	155.224
2' 17"	154.091
2' 18"	152.974
2' 19"	151.874
2' 20"	150.789
2' 21"	149.719
2' 22"	148.665
2' 23"	147.625
2' 24"	146.600
2' 25"	145.589
2' 26"	144.592
2' 27"	143.609
2' 28"	142.639
2' 29"	141.681
2' 30"	140.736
2' 31"	139.804
2' 32"	138.884
2' 33"	137.977
2' 34"	137.081
2' 35"	136.196
2' 36"	135.323
2' 37"	134.461
2' 38"	133.610
2' 39"	132.774
2' 40"	131.940
2' 41"	131.121
2' 42"	130.311
2' 43"	129.512
2' 44"	128.722
2' 45"	127.942
2' 46"	127.171
2' 47"	126.410
2' 48"	125.657
2' 49"	124.914

## 東コース

Time	Speed(km/h)
0分50秒	161.541
0' 51"	158.373
0' 52"	155.328
0' 53"	152.397
0' 54"	149.575
0' 55"	146.855
0' 56"	144.233
0' 57"	141.702
0' 58"	139.259
0' 59"	136.899
1' 00"	134.617
1' 01"	132.410
1' 02"	130.275
1' 03"	128.207
1' 04"	126.204
1' 05"	124.262
1' 06"	122.379
1' 07"	120.553
1' 08"	118.780
1' 09"	117.058
1' 10"	115.386
1' 11"	113.761
1' 12"	112.181
1' 13"	110.644
1' 14"	109.149
1' 15"	107.694
1' 16"	106.277
1' 17"	104.896
1' 18"	103.552
1' 19"	102.241
1' 20"	100.963
1' 21"	99.716
1' 22"	98.500
1' 23"	97.314
1' 24"	96.155
1' 25"	95.024
1' 26"	93.919
1' 27"	92.839
1' 28"	91.784
1' 29"	90.753

コース距離×3600 = 平均時速  
ラップタイム(秒)



鈴鹿サーキットチケットセンターでは、鈴鹿サーキットの各種レースチケットを販売中です。

# 鈴鹿サーキット



## モトピア

- 総合案内所
- 入場券売場
- 正面ゲート
- 救護所
- ファミリーバレー
- モータースポーツランド
- ジョイフルプラザ
- めぐりあい広場
- グランプリ広場
- サーキットスクエア
- 遊園地
- トイカート
- メリーゴーランド・ボロ
- パラ・セイラー
- エアロコモ
- ブラックアウト
- 外輪船
- でんでんむし
- ぶんぶんハチ
- マッハセブン
- スーパースカイライダー
- フライングシップ
- ジュピター
- スペースカプセル
- ポブウォーカー
- モートピアゴカート
- スケーティングカー
- ホットロッド
- アクアカート
- ロッキーコースター
- サイドフォース カート
- ミニムバー
- レーシングカート
- フォーミュラ・グランプリ
- アメリカンレーサー

## ファンアンドゲーム

- パーチナルファクトリー
- スペースショット
- ワールド・ショッピング・ストリート
- INDY500
- セレクトショップ
- ベネトン
- フェニックス/ティレリショップ
- PIAA
- サーキットプラザ
- サーキットファミリーショップ
- 売店
- スーベニア
- シェレ
- アゼリア
- アメリカンモータースポーツ館
- コンビニ「サーキットストア」
- アメリカンレーサー

## リゾート

- リゾート施設/サーキットホテル
- アクア・フォレスト
- 自然温泉クア・ガーデン
- テニスコート
- ぼたん苑
- 万葉の森
- ボウリング場
- ホテルフロント
- コテージC
- ロッジD・E
- ロッジF
- ホテル G
- ホテル J
- ホテル K
- ホテル L
- ホテル M

## 16 ログキャビン・KARAOKEハウス

- オートキャンプフィールド
- ゴルフ練習場
- ゴルフショートコース
- 天然温泉クア・ガーデン
- レストラン/スナック
- イタリア料理:カッパネラ
- 中国四川料理:樓閣
- すし:浜風
- てんぷら:花霞
- 和風レストラン:あじさい
- グランドレストラン
- ラウンジヌエット
- プランジュリード・グランプリ
- マクドナルド
- カフェテラス:チホリ
- うどんコーナー
- コスモス

## 17 ソンブレロ

- ワッピースナック
- ゴルフショートコース
- 天然温泉クア・ガーデン
- レストラン/スナック
- イタリア料理:カッパネラ
- 中国四川料理:樓閣
- すし:浜風
- てんぷら:花霞
- 和風レストラン:あじさい
- グランドレストラン
- ラウンジヌエット
- プランジュリード・グランプリ
- マクドナルド
- カフェテラス:チホリ
- うどんコーナー
- コスモス

## 18 研修会場:けやき

- 鈴鹿国際フォーラム・ロッジ I
- 運動会場
- ホンダコレクションホール
- モータースポーツ
- 国際レーシングコース
- グランドスタンド
- サーキットカートF400・R400
- グランプリスナック
- コントロールタワー
- ピット
- パドックサロン
- SMSC事務所
- 第1パドック
- 第2パドック
- 第3パドック
- 第4パドック
- レースチケットセンター



5 ブラックアウト



27 スペースショット



24 アメリカンレーサー



7 でんでんむし

## HONDA COLLECTION HALL ホンダコレクションホール 第3回「夢の追求」



スクーターや軽自動車など、生活を便利にする製品から、世界的レースの頂点を目指して開発されたマシンまで、様々な夢を追いかけてきたホンダの歩みを紹介します。

■入館料/大人(中学生以上)300円  
子供(小学生)200円  
■開館時間  
平日 10:00~17:00  
土・日・祝 10:00~17:30  
(入館受付終了は閉館30分前)

### ゆうえんちモトピアレースファン割引

スーパーバイク2ヒートレースのチケットをお持ちの方には以下の特典がございます。ぜひご利用ください。

1. のりもの乗り放題のパスポート、通常大人3,500円を2,500円(税込み)にてご利用いただけます。  
※パスポートは園内チケット売場にて、レースチケットをご提示のうえお求めください。
2. パスポートをお求めいただくと、お気軽にレース体験ができるモータースポーツランドのレーシングカートが、通常1回1,000円が800円(税込み)にてご利用いただけます。

(WC) トイレ (WC) ベビーベッド設置トイレ (WC) ベビーベッド設置車椅子可能トイレ (P) 駐車場





**上質なくつろぎをどうぞ。**

まるでスイスのブチホテルのように、静かにたたずむ「鈴鹿サーキットホテル」。豊かな緑のなかに点在する、5タイプのホテルがゆきとどいたサービスと素敵なリゾートタイムをおとけします。



ホテルM  
メソネットタイプ

本館ホテルM



ほっ

おいしいディナーで  
おなかいっぱいになったら、カラオケ。  
おもいっきり歌って、盛り上がる!

**平日のご利用は特にお得。**  
**〈一泊二食パック〉ホテルご利用料金**

お1人様 料金 (2-4名様ご利用)	本館ホテルM		ホテルG・J・K・L	
	大人	子供	大人	子供
平日	11,500円		10,000円	
休前日	14,500円	11,500円	13,000円	10,000円
オンシーズン	19,500円	13,650円	18,000円	12,600円
特定シーズン	23,500円	16,450円	22,000円	15,400円

※オンシーズン(9/14-9/28・11/22~24) ※特定シーズン(10/9~13・11/6~10・12/31~'97 1/4) ※サ込み・諸税別  
★遊園地入園2日間無料、天然温泉クア・ガーデン入浴無料他、特典多数

ほっ

ほっ

ほっ

ためいきもいっほいっほです。

ほっ

ほっ

**遊びながらリラクゼーション!**

アルカリ性単純温泉の大浴場、露天風呂をはじめ、サウナ、温水プール、気浴浴、打たせ湯、トレーニングジムまで。遊びながらくつろげる、温泉リゾート。



1泊2食の料金で一流シェフの料理が楽しめる!  
イタリア料理、日本料理、中華料理のなかから  
お好きなコースを選べます。  
※メニューの内容は季節により若干変わる場合があります。

**Auto Camp Field**

鈴鹿サーキット オートキャンプ フィールド  
AC電源、上下水道を完備したトレーラーサイトをはじめ合計165サイトのオートキャンプ場。充実した設備でどなたも手軽にアウトドアを楽しめます。天然温泉クア・ガーデンやモトピア、レース観戦など、いろいろな遊びと組み合わせ、楽しさ倍増!



**SPACE SHOT**



**エキサイティングコースター ブラックアウト**

宙つり状態でループ、スクリュー、急降下!  
スーパースリルの連続で  
爆発的人気のブラックアウト!!



観覧車・ジューター



メリコランド・ボロ  
ノリノリの  
アトラクションが  
いっぱい!  
モトピア。



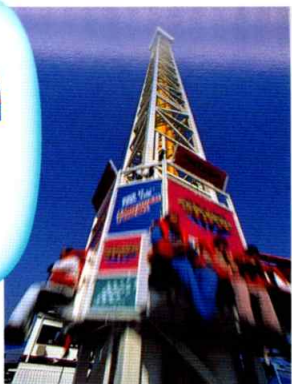
レーシングカート



サーキットカート



ロッキーコースター



体はムキ出して地上50mまで急上昇!  
息つく間もなく急降下!とどめは  
エアアクションのリバウンド。  
驚異の4G体験!

キヤ

キヤ

と遊びながらくつろぎます。

キヤ

キヤ

キヤ

キヤ

**秋の学割パック実施中! 11/30迄**

通常の1泊二食(ホテルG~L)に、特典をスラス。学生の方にオトクな平日の宿泊プランです。

- Aコース 一泊二食、お一人様8,500円(サ込み・諸税別)
- Bコース 一泊二食、お一人様9,800円(サ込み・諸税別) (バスポート&レーシングカート1回券付き)

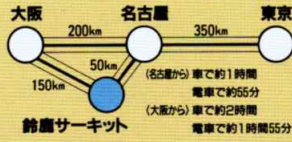
※バックご利用の際は学生証をご提示ください。  
※本館ホテルMご利用の場合はお一人様1,500円プラス。  
休前日は3,000円プラスとなります。

☆女子学生は特にお得!☆  
カラオケ80分2時間無料 (9:00~17:00)  
テニスコート1時間無料 (ラケット・ボール付き)

**鈴鹿サーキット**

〒510-88 三重県鈴鹿市稲生町7992  
☎ 0593-78-1111 (代)

◎お問い合わせ  
名古屋営業所 ☎052-571-7176  
大阪営業所 ☎06-372-1526  
三重営業所 ☎0593-78-1300  
東京営業所 ☎03-3271-5888





**DUNLOP**  
DRIVING TO THE FUTURE



# オレは、ダンロップ。

GRANDPRIX RIDER  
KAZUTO SAKATA

なんたって究極は、グリップだ。  
レーシングライダーにとって、  
実戦ではマシンよりタイヤがキメ手になる。  
とくにグリップが足りないタイヤはまったくダメだね。  
コントロール性は、グリップの次に語られるもの。  
横にスライドしても前へ前へと進んでいく。  
そして、コーナーをしっかりと立ち上がっていく。  
ライダーにヤル気を起こさせるタイヤでなければならない。  
いわば勝利のエモーションの原動力。  
それがグリップだと思う。だから、オレはダンロップ!

Rideen  
**GPR-50 Sp**

**T900GP**



ダンロップは  
安全めざしタイヤ!